

令和5年度

桜井市立埋蔵文化財センター

年 報



2024

桜井市立埋蔵文化財センター

令和5年度

桜井市立埋蔵文化財センター

年 報

2024

桜井市立埋蔵文化財センター

はじめに

桜井市立埋蔵文化財センターでは平成元年4月の開館以来、開発事業や学術調査に伴う数多くの発掘調査を実施するとともに、併設された展示収蔵室を中心とした普及・啓発活動や、文化財全般に対する保護や活用を目的として多くの事業を展開してまいりました。

本年報の刊行は令和5年度にはじまった埋蔵文化財センターの直営化を受けて計画したもので、教育委員会文化財課がセンターを拠点として取り組んだ事業の概要をまとめました。

本書がセンターにおける活動の記録や成果を外部へと報告・発信するだけでなく、職員それぞれが自らの活動を振り返り、以後の職務への取組をより良いものとするための通信簿としての役割も果たしてくれることを期待します。

最後になりましたが、センターの事業の実施に際し、ご指導ならびにご協力賜りました関係各位には心より感謝申し上げます。

令和6年12月27日

桜井市立埋蔵文化財センター

所長 橋本輝彦

例 言

1. 本書は、桜井市教育委員会文化財課が桜井市立埋蔵文化財センターを拠点として令和5年度に実施した事業の概要である。
2. 本書の編集は藤村裕美が担当した。なお、Ⅲ．発掘調査事業の執筆は各担当者が分担し、文末に執筆者名を明記している。

目 次

はじめに

例言

目次

I. 埋蔵文化財センターの概要.....	P. 1
1. 施設の概要	
2. 組織と人員	
(1) 職員の構成	
3. 桜井市立埋蔵文化財センター沿革	
II. センター日誌（抄）	P. 3
III. 普及啓発事業.....	P. 5
1. 展示収蔵室への入館者	
2. 教育・普及	
(1) 展示	
(2) 田原本町との共催事業	
(3) 職場体験	
(4) 見学学習	
(5) 資料の貸出・見学	
(6) 刊行物	
3. 講座・イベント	
(1) 講演会・講座	
(2) 講師の派遣	
(3) 研修等への参加	
4. その他	
寄贈	
IV. 文化財保護事業.....	P.19
1. 指定文化財	
2. 史跡の追加指定	
3. 指定文化財の維持管理	

- (1) 現状変更申請
- (2) 史跡の管理・環境整備
- (3) 指定文化財の修理・管理

V. 発掘調査事業..... P.21

- 1. 大藤原京関連遺跡第 72 次発掘調査
- 2. 城島遺跡第 55 次発掘調査
- 3. 戒重城跡第 1 次発掘調査
- 4. 大藤原京関連遺跡第 73 次発掘調査
- 5. 大藤原京関連遺跡第 74 次発掘調査
- 6. 保存処理
 - (1) 木製品
 - (2) 金属製品
 - (3) 動物遺存体（骨）

VI. 図書の受領..... P.61

- 1. 受領図書・パンフレット

I. 埋蔵文化財センターの概要

桜井市内には、さまざまな種類の遺跡が数多く所在しており、全国的に見ても貴重な遺跡が豊富な地域である。その一方で零細な各種開発事業も多く、桜井市ではこれらとの調整も図りながら埋蔵文化財の保護と保存をおこなってきた。結果、出土遺物や記録類の蓄積は膨大な量にのぼり、これらの収蔵とともに活用の道を探ることが課題となった。

このような状況を背景として桜井市立埋蔵文化財センターは市内の埋蔵文化財の発掘及び調査、研究並びに出土品等の整理、保存及び活用を図り、もって市民文化の向上に資することを目的に設置されたものである。

1. 施設の概要

所在地	桜井市大字芝 58 番地の 2	主な部屋の面積
竣工	昭和 63 年 10 月 1 日	展示収蔵室 75 m ²
開館	平成元年	事務室 53.4 m ²
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建	整理室 42.25 m ²
敷地面積	2920.56 m ²	作業室 66.5 m ²
建物面積	1,205.69 m ²	図書資料室 33.75 m ²
(内訳) 1 階	743.19 m ²	多目的室 71.68 m ²
2 階	462.50 m ²	収蔵庫 92.5 m ²
駐車場	6 台	特別収蔵庫 33.75 m ²

展示収蔵室利用案内

開館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
(入館は午後 4 時まで)

休館日 月・火曜日
(祝日の場合は開館)

年末年始
(12 月 29 日～1 月 3 日)

料金 一般 200 円
(団体 20 名以上は 150 円)

※市内在住の方・中学生以下の方は無料



2. 職員と人員

桜井市立埋蔵文化財センターは桜井市教育委員会文化財課文化財係の一施設（課内室担当）である。文化財課には文化財係と調査研究係の2つの係があり、文化財課長及び文化財係の職員は埋蔵文化財センターの職員も兼務している。

令和5年度における文化財課職員の構成は下記のとおりとなっている。

（1）職員の構成（令和6年3月31日現在）

文化財課 課長 橋本輝彦

文化財係

調査研究係

副主幹（係長事務取扱） 西村知香

副主幹（係長事務取扱） 丹羽恵二

主 査 森井智世子、松宮昌樹

会計年度任用職員 立石千紘、巽 優貴

主 任 森 暢郎、飯塚健太、

西村知浩

纏向学研究センター

会計年度任用職員 藤村裕美、藤野千春

所 長 寺澤 薫

3. 桜井市立埋蔵文化財センター沿革

・昭和63年

10月 桜井市立埋蔵文化財センター 竣工

桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第20号）公布

・平成元年

3月 桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第3号）公布

4月 桜井市立埋蔵文化財センター 開館

・平成17年

12月 指定管理者制度の導入にむけて

桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第31号）改正

桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第5号）改正

公益財団法人桜井市文化財協会が指定管理者となる

・令和4年

12月 埋蔵文化財センターの指定管理終了にむけて

桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第23号）改正

桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第6号）改正

・令和5年

3月 公益財団法人桜井市文化財協会による施設の管理運営が終了

4月 桜井市教育委員会文化財課による施設の管理運営が開始

Ⅱ．センター日誌（抄）

4月12日	令和5年度速報展29「50cm下の桜井」開催	7月2日	伊都国歴史博物館江野道和氏 資料調査
4月13日	橿原考古学研究所東影悠氏 来所	7月3日	纏向遺跡第183次調査出土イヌ骨の復元 模型の打合せ
4月27日	奈良新聞竹内稔人氏 速報展取材	7月18日、24日	飛鳥学院保育所 見学学習(77名)
5月1日	読売新聞土谷武嗣氏 速報展取材	7月28日	読売テレビ波止莊子氏 取材
5月2日	橿原考古学研究所杉山拓己氏他2名 資料調査	7月29日	発掘調査報告会 (講師:巽優貴、森暢郎、村上朋氏、青木智史氏)
5月8日	高取国際高等学校松村泰毅教諭他2名 講師派遣の打ち合わせ	8月1日	伊都国伊都国歴史博物館江野氏、 カメラマン牛嶋茂氏 資料調査
5月12日	大福小学校 見学学習(115名) 読売新聞多可政史氏 来所	8月8日	神戸市埋蔵文化財センター 阿部功氏、中村大介氏 資料調査
5月19日	慈恩寺阿弥陀堂西野寛山住職 来所		読売新聞関口氏、早川保夫氏 来所
5月24日	読売新聞関口和哉氏 来所	8月10日	NHK柳澤伊佐男氏 取材
5月25日	奈良新聞竹内氏 取材	8月13日	日本大学山崎真紀子氏他1名、 京都大学小島基洋氏 資料調査
5月26日	城島小学校 見学学習(65名)	8月23日	桜井市教育委員会新採用教員の研修(29名)
5月31日	橿原考古学研究所鈴木朋美氏 資料調査 やまと文化フォーラム 大畑春華氏、 道村かよこ氏 講師派遣の打ち合わせ	8月24日	田原本町文化財保存課小田成寿氏他2名 桜井市・田原本町共催シンポジウム 打ち合わせ
6月1日	慈恩寺阿弥陀堂西野住職 来所		土舞台顕彰会佐藤氏 来所
6月2日	奈良女子大学宮路淳子氏他2名 来所	8月31日	NHK山崎氏、夫馬直実氏 取材
6月5日	橿原考古学研究所岡田憲一氏 大藤原京関連遺跡第72次調査出土 資料の指導 寺崎比呂美氏 報道ステーションの取材 京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻 考古学専修博士後期課程渡辺幸奈氏 資料見学	9月8日	橿原考古学研究所鈴木氏他1名 資料貸出
6月15日	織田小学校 見学学習(19名) ボランティアガイド新人研修	9月11日	土舞台顕彰会佐藤氏 来所
6月19日	時事通信社町田翼氏 取材	9月12日～14日	大三輪中学校 職場体験
6月22日	NHK山崎啓明氏 取材	9月14日	向日市埋蔵文化財センター 梅本康広氏 資料貸出
6月29日	土舞台顕彰会佐藤聞雄氏 来所 出雲 中谷健一氏、水野佳珠氏 出雲人形の打ち合わせ	9月16日	朝倉の宮会西忠吉氏他4名 来所
		9月20日	松山市考古館小玉亜紀子氏 資料調査
		9月22日	なら歴史芸術文化村北村良子氏 来所
		9月24日	天理市教育委員会高橋直大氏 来所
		9月27日	NHK柳澤氏 取材
		10月4日	特別展「古墳時代研究 陰の立役者 円筒埴輪—桜井市出土を中心に—」開催

10月17日、18日	同志社大学公門杏実氏 資料調査	12月27日	朝日新聞太田匡彦氏 取材
10月23日	桜井市立図書館座光寺浩之氏 来所 土舞台顕彰会佐藤氏 来所	1月10日	桜井市立図書館館長座光寺浩之氏 来所
10月25日	地域文化財研究所福永信雄氏 来所	1月11日	読売新聞関口氏 企画展取材
10月26日、27日	桜井中学校 職場体験	1月12日	奈良新聞竹内氏 取材
10月27日	土舞台顕彰会佐藤氏 来所	1月16日	松山市考古館小玉氏 資料貸出
11月11日、18日	特別展開連講座 (講師:奥田尚氏、森暢郎、廣瀬覚氏、丹羽恵二)	1月17日	連続講座②(講師:西村知浩)
11月16日	奈良教育大学金原正明氏 来所	2月3日	大阪音楽大学特任教授松本茂章氏 来所 元橿原考古学研究所木下亘氏他3名 来所
11月24日	産経新聞小畑三秋氏 取材	2月6日	越前町教育委員会古川登氏 来所
11月28日	NHK4名 NHKスペシャル撮影	2月8日	桜井市観光協会高谷浩一氏 来所
11月30日	神戸市埋蔵文化財センター阿部氏 資料調査	2月14日	連続講座③(講師:立石千紘) 桜井ライオンズクラブ大倉孝之氏 来所
12月6日	企画展「桜井市に縁がある宝物 ～思いがけない大発見～」開催 土舞台顕彰会佐藤氏 来所	2月15日	交野市教育委員会社会教育課真鍋成史氏 資料見学
12月7日	奈良新聞竹内氏 企画展取材 向日市埋蔵文化財センター梅本氏 資料貸出 伊都国歴史博物館江野氏 資料貸出	2月19日	桜井ライオンズクラブ寄贈 展示室プロジェクター 設置
12月8日	上牧町社会教育課 関川尚功氏、奥田利伽氏 来所	2月22日	中外日報社武田智彦氏、成城大学外池昇 取材
12月8日、11日、12日、18日	京都府立大学大学院 文学研究科守田悠氏 資料見学	2月28日	連続講座④(講師:巽優貴)
12月11日	慈恩寺阿弥陀堂西野住職 来所	2月29日	奈良教育大学金原氏 来所
12月19日	NHK4名 NHKスペシャル撮影	3月13日	連続講座⑤(講師:飯塚健太) 土舞台顕彰会佐藤氏 来所
12月20日	連続講座①(講師:森暢郎) 奈良新聞竹内氏 企画展取材	3月14日	奈良テレビ 企画展取材
		3月15日	株式会社アド近鉄 展示室取材
		3月27日	連続講座⑥(講師:藤村裕美)
		3月29日	NHK柳澤氏 取材

Ⅲ. 普及啓発事業

1. 展示収蔵室への入館者

入館者に関する詳細は下記表の通りで、令和5年度は桜井市直営化に伴い、中学生以下と市内在住の方は無料となった。今年度は新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受けて、各展示のイベントの自粛を解除した。その影響もあり昨年度より入館者数は1,000人程度増加した。

	開館 日数	一般							団体				その他 (関係者・協力者)		講座 受講者等	入館 者数
		市外					市内		市外		市内					
		大人	割引 (JAF等)	招待券	手帳所有者 (付添含む)	中学生以下	大人	中学生以下	大人	中学生以下	大人	中学生以下	市外	市内		
4月	14	156	8	2	1	0	22	1	34	0	0	0	1	0	0	225
5月	20	238	48	8	6	5	32	0	11	0	0	169	7	0	0	524
6月	22	130	22	4	15	2	27	1	2	19	0	0	9	0	0	231
7月	23	106	24	26	15	15	26	2	31	0	12	65	6	1	75	404
8月	21	173	27	2	2	15	12	2	0	0	29	0	7	0	0	269
9月	22	175	29	3	3	5	33	2	0	0	19	0	9	3	0	281
10月	22	236	29	6	7	1	8	1	0	0	0	0	53	7	0	431
11月	22	446	49	36	18	15	33	1	78	0	10	0	22	7	66	781
12月	19	215	12	17	8	3	9	0	64	0	0	0	14	1	45	388
1月	20	141	7	6	9	9	15	2	23	0	0	0	20	0	70	302
2月	21	165	29	2	8	6	13	1	27	0	0	0	12	10	53	326
3月	22	336	41	2	7	9	17	3	0	0	0	0	9	5	52	481
総計	248	2,517	325	114	99	85	247	16	270	19	70	234	169	34	361	4,643

過去10年間の入館者数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度/ 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入館者数	6,510	4,416	5,316	4,303	4,632	5,344	5,613	2,859	3,161	3,686

2. 教育・普及

(1) 展示

当センターでは展示収蔵室にて常設展と、平成元年の開館以来、年に数回企画展や特別展を開催している。令和5年度は春に昨年度の発掘調査成果を報告する速報展、秋に特別展、冬に企画展をおこなった。

●常設展示

桜井市が昭和46年からおこなっている発掘調査資料を中心に展示している。その中には、纏向遺跡から出土した木製仮面などの祭祀遺物や埴輪、大福遺跡で見つかった袈裟褌文銅鐸などのほかにも、旧石器時代から飛鳥・奈良時代までの遺物を時代順に展示することで、桜井市の歴史を学べる構成になっている。



常設展示の様子

●速報展「令和5年度速報展 29 50cm下の桜井」

速報展では、毎年前年度実施した発掘調査成果を展示しており、令和4年度におこなわれた、纏向遺跡や吉備池遺跡などの発掘調査成果を展示した。特に今年度は、奈良教育大学の調査チームがおこなった桜井市金屋にあるミロク谷石棺と呼ばれる家形石棺の三次元計測の調査結果を報告していただいた。

担 当：藤村 裕美

期 間：令和5年4月12日（水）～令和5年10月1日（日）

入場者：1,969人



奈良教育大学によるミロク谷石棺調査
展示風景

速報展関連講演会「発掘調査報告会」

令和4年度の発掘調査から、吉備池遺跡第19次、纏向遺跡第203次調査、第204次調査を発表した。また奈良教育大学調査チームの学生にご協力いただいて、三次元計測を用いて明らかとなったミロク谷石棺の新知見についても発表をおこなった。

日 時：7月29日（土）

人 数：75人

内 容：吉備池遺跡第19次調査

異 優貴（桜井市教育委員会文化財課）

纏向遺跡第203次調査、第204次調査

森 暢郎（桜井市教育委員会文化財課）

三次元計測を用いて明らかとなったミロク谷
石棺の新知見

村上 朋氏

（奈良教育大学大学院教育研究科修士課程
大学院生）

青木 智史先生（奈良教育大学 教育学部理科教育講座（文化財科学））



発表の様子(講師:森)



発表の様子(講師:村上氏)



発表後展示室での解説(講師:青木先生)



発表後展示室での解説(講師:巽)

●特別展「古墳時代研究陰の立役者 円筒埴輪 —桜井市出土資料を中心に—」

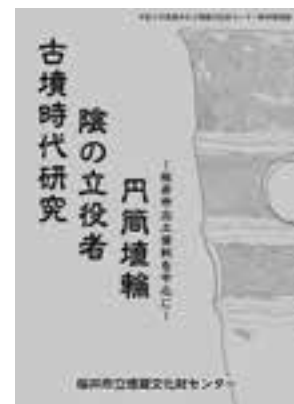
桜井市ではメスリ山古墳や茅原大墓古墳などから円筒埴輪が出土しており、長きに渡って樹立されてきた地域である。その円筒埴輪が、いかに古墳時代研究を支えてきたのかを解説する展示をおこなった。

担 当：森 暢郎

期 間：令和5年10月4日（水）

～令和5年12月3日（日）

入場者：1,335人



特別展関連講演会

令和5年度特別展のテーマである桜井市出土の円筒埴輪を中心に、2週にわたって埴輪に含まれている砂礫からわかる生産地や工人集団などについての解説や、円筒埴輪の変遷から考えられる古墳の築造年代についての内容の講演をおこなった。

日 時：11月11日（土）、11月17日（土）

人 数：11日32人、17日34人

内 容：「埴輪胎土の砂礫種構成に基づく埴輪の生産地—桜井市内出土埴輪について—」

奥田 尚氏（纏向学研究センター共同研究員）

「桜井出土の円筒埴輪」

森 暢郎（桜井市立埋蔵文化財センター）

「埴輪から古墳の築造年代を読む 一年代のものさしとしての円筒埴輪—」

廣瀬 覚氏（奈良文化財研究所）

「石塚東古墳出土埴輪からみえるもの」

丹羽 恵二（桜井市纏向学研究センター）



特別展関連報告会(講師:奥田氏)



特別展関連報告会(講師:森)



特別展関連報告会(講師:廣瀬氏)



特別展関連報告会(講師:丹羽)

●企画展「桜井に縁がある宝物～思いがけない大発見～」

遺跡から発掘調査によって確認できた遺物だけではなく、兵庫県尼崎市に在住の方が自宅で見つけた桜井市に関連する考古資料や、貴重な金屋の石仏の全身の拓本、桜井市に居住していた日本画家岡本桃里による掛け軸や、今までに当センターに寄贈していただいた桜井市と「縁」のある資料から見た、桜井市の歴史について紹介した。

担 当：藤村 裕美

期 間：令和5年12月6日(水)～令和6年4月21日(日)

入場者：1,676人



金屋の石仏 全身の拓本

(2) 田原本町との共催事業

桜井市と田原本町は遺跡を生かしたまちづくりに取り組んでおり、誘客の環境整備も整いつつある。しかし、奈良県への訪問者は奈良市や斑鳩町など神社仏閣を訪れる人が主であることから原始・古代史にも関心をもってもらい、両市町への来訪を促すために、共催シンポジウムを平成30年から企画し、全国各地で開催している。これまでに愛知県名古屋市、大阪府大阪市、田原本町、愛媛県松山市の計4回開催し、令和5年度は、福岡県糸島市と愛媛県松山市との共催のもと、「卑弥呼のクニを探る」というテーマのもとシンポジウムを開催し、あわせてそれぞれの展示室で唐古・纏向を中心とした遺物の展覧会を開催していただいた。

●糸島市伊都国歴史博物館における事業

令和5年度伊都国歴史博物館秋季特別展『「邪馬台国畿内説」のゆくえ ヤマトと伊都国』

畿内説において「邪馬台国」の本拠地とされている奈良盆地の主要遺跡である纏向遺跡や大福遺跡から出土した、重要文化財を含む貴重な品々を糸島市伊都国歴史博物館に展示し、伊都国に関連する遺跡の説明や出土品と比較した陳列をしていただいた。あわせて桜井市・田原本町に関連する観光ポスターやパネル等を掲示していただいた。

期 間：令和5年10月7日（土）～令和5年11月26日（日）



伊都国歴史博物館での展示風景



ポスター・パネルの展示

福岡県糸島市・桜井市・田原本町共催シンポジウム

「卑弥呼のクニを探る－検証 邪馬台国畿内説と伊都国」

奈良県桜井市及び田原本町と福岡県糸島市が共催するイベントとして、弥生時代から古墳時代にかけてのヤマトと伊都国の関係についてのシンポジウムを開催した。またシンポジウム当日にはAR体験ブースを設置し、「桜井周遊ARガイドYAMATO」アプリ内にあるAR、VRを体験していただいた。

日 程：10月29日（日）

人 数：約550人



AR体験ブースの様子

講演：「邪馬台国と唐古・鍵遺跡」

藤田 三郎氏（田原本町埋蔵文化財センター長）

「邪馬台国と纏向遺跡」

橋本 輝彦（桜井市立埋蔵文化財センター所長）

「邪馬台国と伊都国」

角 浩行氏（伊都国歴史博物館学芸員）

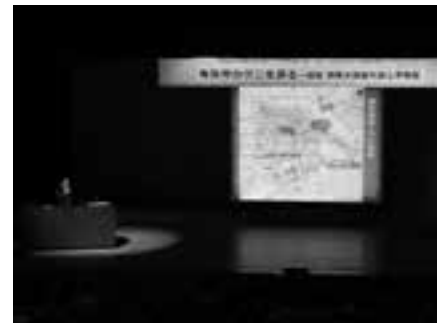
〈シンポジウム〉

コーディネーター：常松 幹雄氏（福岡大学人文学部非常勤講師）

パネリスト：藤田 三郎氏、橋本 輝彦、角 浩行氏



松井正剛市長による挨拶



シンポジウムの様子

●松山市考古館おける事業

令和5年度松山市考古館特別展『弥生時代のヤマト～奈良県唐古・鍵遺跡から纏向遺跡へ～』

桜井市からは畿内を代表する弥生時代後期の遺跡である大福遺跡や古墳時代前期の遺跡の纏向遺跡から出土した遺物を出品し、ならびに同時代の松山市内の遺跡出土品などを展示していただいた。

期 間：令和6年1月27日（土）

～令和6年3月10日（日）

愛媛県松山市・桜井市・田原本町共催シンポジウム

「卑弥呼のクニを探るーヤマト・イヨー」

奈良県桜井市及び田原本町と愛媛県松山市が共催するイベントとして、昨年度の古墳時代のイヨーとヤマトに引き続き今年度は弥生時代のイヨーとヤマトについてシンポジウムを開催した。またシンポジウム当日にはAR体験ブースを設置し、「桜井周遊ARガイドYAMATO」アプリ内にあるAR、VRを体験していただいた。また、令和6年2月28日（水）付の愛媛新聞17面に今回の展示に関する記事が掲載された。

日 程：2月17日（土）

人 数：約80人



松山市考古館での展示の様子

講演：「唐古・鍵遺跡、清水風遺跡」

藤田 三郎氏（田原本町埋蔵文化財センター長）

「大福遺跡、纏向遺跡」

橋本 輝彦（桜井市立埋蔵文化財センター所長）

〈シンポジウム〉

コーディネーター：梅木 謙一氏（松山市考古館館長・兼パネリスト）

パネリスト：藤田 三郎氏、橋本 輝彦



AR体験ブースの様子



シンポジウムの様子

（3）職場体験

市内中学生の職場体験を以下の期間で受け入れ、当センターの発掘業務の一端である現場から出土した土器の洗浄・接合や市内の遺跡案内板の清掃などを体験してもらった。

体験した生徒からは、後日「土器の接合でどこどこが接合できるのが難しかったけれども、この体験から一つのことを集中していくことを生かしていきたい。」「土器洗浄で初めて土器に触れて感動した。将来は歴史関連の仕事がしたい。」などの感想を得た。

学 校 名	期 間	人 数	内 容
大三輪中学校	9月12日～9月14日	2人	土器洗浄・土器接合・鑄造体験・市内の遺跡案内板の清掃など
桜井中学校	10月26日～10月27日	1人	



市内の遺跡案内板を清掃



鑄造体験



土器の洗浄



土器の接合

(4) 見学学習

以下の日程で、市内の保育所・小学校等が展示収蔵室にて見学学習をおこない、展示収蔵室では、市内で出土した遺物を通じて過去から現在までの人々の生活がどのように変化していったのかなどを解説し、2階多目的室では、各校区の主な遺跡についての解説や、実際に土器の接合の体験などをおこなった。

学 校 名 (団体名)	日 程	人 数
大福小学校(3・4年生)	5月12日	115人
城島小学校(6年生)	5月26日	65人
織田小学校(6年生)	6月15日	19人
飛鳥学院保育所	7月18日	32人
飛鳥学院保育所	7月24日	45人
桜井市教育委員会及び郷土読本作成委員会 新採用教員の研修	8月23日	29人



展示収蔵室にて全体の解説



多目的室にて遺物の解説

(5) 資料の貸出・見学

令和5年度は、当センターで保管されている資料の貸出9件、写真掲載44件、資料見学4件の申請等が計78件（来年度分貸出等も含む）提出された。また資料見学のうち2件が学生の論文作成に伴う見学であった。これらの以下表は今年度他の博物館等に資料の貸出をおこなったもの、写真の掲載許可を出したものの、資料の見学の一覧である。

資料貸出

貸出先・展示のタイトル	貸出期間	遺跡名	資料名	点数
九州国立博物館 平常展	通年	小立古墳	石見型木製品	2点
唐古・鍵考古学ミュージアム 常設展	通年	纏向遺跡	甕・高坏	2点
奈良県橿原考古学研究所附属博物館 令和5年度速報展「大和を掘る38」	7月4日～9月29日	大福遺跡 出雲西遺跡	弥生土器・長頸壺・須恵器杯 等	17点
(公財)向日市埋蔵文化財センター 財団設立35周年記念特別展示 『古墳発掘100年 寺戸大塚』	9月15日～12月8日	纏向遺跡	鶏形埴輪	1点
糸島市伊都国歴史博物館 令和5年度伊都国歴史博物館秋季特別展 『「邪馬台国畿内説」のゆくえ ヤマトと伊都国』	9月19日～12月15日	大福遺跡 纏向遺跡	袈裟襷文銅鐸・木製 仮面 等	45点
神戸市埋蔵文化財センター 令和5年度秋季企画展『火と人のヒストリー』	9月7日～12月15日	纏向遺跡	卜骨 等	20点
土舞台顕彰会 令和5年度『土舞台顕彰会大祭及び講演会』	11月4日		万葉歌碑	6点
(公財)松山市文化・スポーツ振興財団 令和5年度松山市考古館特別展 『弥生時代のヤマト～奈良県唐古・鍵遺跡から纏向遺跡へ～』	1月15日～3月10日	大福遺跡 纏向遺跡	木製仮面・銅鐸片・ 送風管 等	14点
国立民族学博物館 特別展『日本の仮面―芸能と祭りの世界―』	3月21日～6月21日	大福遺跡 纏向遺跡	仮面状木製品・木製 仮面	2点

写真貸出

申請者名	遺跡名	資料名	点数
(株)NHKエデュケーショナルコンテンツ 制作開発センター	纏向遺跡	162次・166次調査 風景写真	一式
(株)アーク・コミュニケーションズ	纏向遺跡	163次調査出土 犬骨出土写真	1点
奈良県文化・くらし創造部なら歴史芸術文化村	芝遺跡	6次調査出土 子持勾玉	2点
小松市埋蔵文化財センター	箸墓古墳	全景写真(俯瞰)	1点

(株)ビジョン21	箸墓古墳	全景写真(垂直)	1点
(株)テレビ朝日 情報局情報センター	纏向遺跡	搬入土器・ ベニバナ花粉・ 大型建物模型	3点
(株)グレイル	纏向遺跡	辻地区航空写真	1点
個人	大福遺跡 纏向遺跡 等	出土土器	8点
個人	纏向遺跡	周辺地図・ 航空写真	2点
(株)吉川弘文館編集部	城島遺跡	外山下田地区出土 木製品	1点
(有)大悠社	箸墓古墳	航空写真(垂直)	1点
糸島市伊都国歴史博物館	纏向遺跡	木製仮面・ 大型建物CG	2点
奈良県橿原考古学研究所附属博物館	大福遺跡 出雲西遺跡	弥生土器出土状況 掘立柱建物検出状況	4点
(株)ジオグリフ	纏向遺跡	搬入土器	1点
(株)ABCアーク 歴史人編集部	纏向遺跡	183次調査出土 ト骨・木製仮面 等	4点
(株)クリエイティブ・スイート	箸墓古墳	航空写真(俯瞰)	1点
奈良県立美術館	纏向遺跡 大福遺跡	木製仮面 仮面状木製品	2点
個人	纏向遺跡	搬入土器・ 辻地区航空写真 等	6点
糸島市伊都国歴史博物館	纏向遺跡 大福遺跡	ベニバナ花粉 銅鐸 等	50点
(株)ABCアーク 歴史人編集部	纏向遺跡	全景写真	1点
神戸市埋蔵文化財センター	纏向遺跡	183次調査出土 ト骨	1点
神戸市埋蔵文化財センター	纏向遺跡 大福遺跡	全景写真 鋳造関連遺物 等	6点
(株)グレイル	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真 木製仮面 等	5点
(株)雄山閣	大福遺跡	28次調査出土 木甲関係	2点
奈良県観光局プロモーション課	山田寺	風景写真	1点
天理市教育委員会文化財課	纏向遺跡	全景写真	1点
奈良県立橿原考古学研究所	芝遺跡	子持勾玉	1点
桜井市老人クラブ連合会	桜井茶臼山古墳	全景写真	1点

RSK山陽放送(株) ラジオ局ラジオ制作部	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真 木製仮面 等	4点
(株)NHKエデュケーショナルコンテンツ 制作開発センター	纏向遺跡	搬入土器	2点
松山市考古館	大福遺跡 纏向遺跡	銅鐸破壊実験資料 木製仮面 等	21点
(株)自由社	箸墓古墳	航空写真(垂直)	1点
国立民族学博物館	纏向遺跡 大福遺跡	木製仮面 仮面状木製品	2点
奈良県立橿原考古学研究所	桜井茶臼山古墳	石室石材 木棺片	5点
大阪府立弥生文化博物館	大福遺跡	鋳造関連遺物と共伴土器	1点
(株)山川出版社	箸墓古墳	航空写真(垂直)	1点
RSK山陽放送(株) ラジオ局ラジオ制作部	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真(俯瞰) ベニバナ花粉 等	5点
(株)グレイル		欽明天皇磯城嶋金刺 宮址石碑	1点
(株)天夢人	箸墓古墳 赤坂天王山古墳	拝所・ 全景写真 等	8点
(株)はる製作室	桜井茶臼山古墳	航空写真	1点
福岡市博物館	茅原大墓古墳	盾持人埴輪	2点
奈良県橿原考古学研究所附属博物館	纏向遺跡	5次調査出土 家形埴輪	1点
東京国立博物館 九州国立博物館 NHKプロモーションイベント事業センター 朝日新聞 メディア事業本部	小立古墳	大刀形木製品 靱形木製品	2点
(株)KADOKAWA	箸墓古墳	航空写真(俯瞰)	1点

資料見学

見学者	見学日	遺跡名	資料名	点数	目的
個人	6月5日	東新堂遺跡 横大路	縄文土器	一式	縄文時代の注口土器の研究、論文執筆のため
個人	10月16日・10月17日	赤尾熊ヶ谷古墳 赤尾崩谷古墳	玉類	一式	修士論文執筆のため
個人	12月8日・11日・ 12日・18日	風呂坊5号墳 双築2号墳 中山古墳群	鉄釘 環座金具	一式	修士論文執筆のため
交野市教育委員会 社会教育課・個人	2月15日	安倍寺遺跡 谷遺跡 城島遺跡 磐余遺跡群 上之宮遺跡	鞆羽口 鉄滓	一式	交野市教育委員会編『古代交野と鉄Ⅲ』作成のため、その比較資料としての調査

TV・新聞の取材

出版社・制作会社	種目	日付	内容・題目	掲載紙面・番組名
奈良新聞	新聞	4月27日	令和5年度速報展29「50cm下の桜井」の取材	奈良新聞
読売新聞	新聞	5月1日	令和5年度速報展29「50cm下の桜井」の取材	読売新聞
テレビ朝日	テレビ	6月5日	邪馬台国論争に「一石投じる」世紀の発見？吉野ヶ里遺跡『石棺墓』開封	報道ステーション
産経新聞	新聞	11月24日	特別展「古墳時代研究陰の立役者 円筒埴輪―桜井市出土を中心に―」の取材	産経新聞
奈良新聞	新聞	12月7日	企画展「桜井市に縁がある宝物～思いがけない大発見～」の取材	奈良新聞
奈良テレビ	テレビ	3月14日	企画展「桜井市に縁がある宝物～思いがけない大発見～」の取材	奈良テレビ

(6) 刊行物

令和5年度は、以下の書籍・パンフレット等を刊行した。

書籍名	刊行日	部数	内容
『令和5年度速報展29 50cm下の桜井』 パンフレット	令和5年4月	2,500部	令和5年度速報展パンフレット
『古墳時代研究陰の立役者 円筒埴輪 ―桜井市出土資料を中心に―』 図録	令和5年10月	500部	令和5年度特別展図録
『桜井に縁がある宝物～思いがけない大発見～』 パンフレット	令和5年12月	2,500部	令和5年度企画展パンフレット
『令和4年度国庫補助による発掘調査報告書』	令和6年3月	300部	令和4年度に国庫補助で実施した上ゲ山遺跡第1次調査、吉備池遺跡第19次調査の発掘調査報告書

3. 講座・イベント

(1) 講演会・講座

連続講座「私、これについて語ります！」

展示に関連する講座ではなく、文化財課の専門職員が、それぞれの研究やテーマ、関心を持っていることなどを語ることで、普段は聞くことができない学芸員の興味・関心に迫る内容の講座をおこなった。

日 程：①12月20日、②1月17日、③1月31日、④2月14日、⑤2月28日、

⑥3月13日、⑦3月27日、⑧4月10日

講 座：①「談山神社・妙楽寺跡第1次調査について」

森 暢郎 参加者：33名

②「纏向遺跡第195次調査出土土坑の土壌洗浄とその分析について」

西村 知浩 参加者：32名

③「纏向型前方後円墳から定形型前方後円墳へ」

橋本 輝彦 参加者：39名

④「遺跡の魅力発信とその先へ

—纏向遺跡を例として—

立石 千紘 参加者：31名

⑤「吉備池廃寺の瓦」

巽 優貴 参加者：21名

⑥「中世大和・桜井の城郭を語る」

飯塚 健太 参加者：23名

⑦「様々な鏡の文様

—桜井市出土のものを中心に—

藤村 裕美 参加者：23名

⑧「邪馬台国論争の中の纏向」

橋本 輝彦 参加者：34名



連続講座(講師:森)



連続講座(講師:西村)



連続講座(講師:立石)



連続講座(講師:巽)



連続講座(講師:飯塚)



連続講座(講師:藤村)

(2) 講師の派遣

職員の講師派遣の依頼については、当センター専門職員は桜井市纏向学研究センター研究員を兼務していることもあり、その内容については『桜井市纏向学研究センター年報』に集約しているため、これを参照されたい。

(3) 研修等への参加

以下の協議会が開催する研修会に職員を派遣し、他機関との交流や技術研修をおこなっている。
これらの会議への参加・出席実績は以下のとおりである。

名称	内容	期日	場所	参加者
奈良県市町村文化財保護活動協議会総会、研修会	陳情状況報告書 令和6年度国庫補助に対する拡充要望状況について	5月18日	吉野町中央公民館	—
奈良県市町村文化財保護活動協議会第2回研修会	王寺町文化財保存活用地域計画の作成から認定までとその後の取り組み、鉄道の町王寺プロジェクトマップマッピング 達磨寺における文化資源の保存と活用の取り組み	2月21日	王寺町地域交流センター	西村 知香
奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会総会	令和4年度事業報告及び決算報告書について 役員の選任について 令和5年度授業計画及び予算(案)について	5月26日	田原本町青垣生涯学習センター	西村 知浩
奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会研修	安満遺跡及び今城塚古墳の整備・保存・活用について	2月16日	安満遺跡公園・今城塚古墳ほか	森 暢郎
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	令和4年度事業報告・収支決算について 監査報告、新規加盟組織に勧誘について 発掘された日本列島2023展について 令和5年度事業計画(案)・収支予算(案)について 令和6年度総会及び研修会開催について 令和7年度以降の総会・研修会等の幹事機関について 全国埋蔵文化財法人連絡協議会との連携について	6月8日・9日	鹿児島県サンロイヤルホテル	橋本 輝彦
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第35回研修会	近年の史跡石清尾山古墳群や史跡快天山古墳における調査・活用の実践的事例から史跡における保存目的調査と活用の意義	10月19日・20日	香川県立ミュージアム	橋本 輝彦
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会近畿ブロック会議	令和5年度第1回総会の報告 今後の役員機関の確認 議事提案事項についての協議・意見交換	11月28日	奈良市埋蔵文化財センター	—
第58回全国史跡整備市町村協議会大会	情報交換会 エクスカッション	10月4日～6日	埼玉県川越市内ほか	橋本 輝彦
全国史跡整備市町村臨時大会	令和6年度史跡等関係予算について 臨時大会後の行動について	11月17日	ホテルニューオータニ	橋本 輝彦

4. その他

寄贈

桜井ライオンズクラブ様より、CN60周年記念に伴い、展示室にプロジェクター1基とスピーカー1基をご寄贈いただいた。

プロジェクターは、現在展示室入り口付近にて桜井市の季節ごとの郷土資料映像を随時投影しており、入館していただいた方々に桜井市の歴史と文化を知っていただけるように活用している。



寄贈いただいたプロジェクター



プロジェクターによる映像投影

IV. 文化財保護事業

1. 指定文化財

桜井市内の指定文化財は、国指定文化財 75 件、県指定文化財 46 件、市指定文化財 44 件の計 165 件が認定されている。以下が指定文化財の内訳を示した表である。令和 5 年度は、新たに登録されたものや、追加指定された文化財はない。

登録有形文化財は新たに育成幼稚園園舎兼日本聖公会桜井聖保羅教会礼拝堂を追加するよう、令和 6 年 3 月 15 日付文化審議会に答申がなされ、令和 6 年 8 月 15 日付で告示され、登録された。

指定文化財一覧

種別	有形文化財															民俗文化財		記念物			
	国宝					重要文化財										無形文化財	有形民俗文化財	無形民俗文化財	特別史跡	史跡	
指定区分	建造物	彫刻	工芸	書跡・典籍	考古資料	建造物	彫刻	絵画	工芸	書跡・典籍	考古資料	歴史資料	古文書	歴史資料							
国指定	1	2	1	1	1	10	12	9	15	4		1					1	2	14	1	75
県指定						6	6	10	6	1	1	1	1		1	1	2		5	5	46
市指定						5	7	3	5		11		2				1		3	7	44
計	1	2	1	1	1	21	25	22	26	5	12	2	3	0	1	1	4	2	22	13	165

登録有形文化財 (建造物)	8 (国登録)
------------------	------------

2. 史跡の追加指定

令和 6 年 2 月 21 日付で、史跡纏向遺跡の太田地区において追加指定が告示された。詳細は『令和 5 年度桜井市纏向学研究センター年報』に掲載しているのので、参照されたい。

3. 指定文化財の維持管理

(1) 現状変更申請

令和 5 年度に桜井市内の指定文化財に対する現状変更の申請は、史跡名勝天然記念物 14 件、奈良県指定文化財 0 件、桜井市指定文化財 0 件であった。

(2) 史跡の管理・環境整備

史跡地及びその周辺は、見学者が快適に見学できるように年に数回、地元自治会及び外部への委託をおこなって剪定・草刈りを実施している。

【実施箇所】

- ①埋蔵文化財センター ②国史跡纏向遺跡（辻地区） ③国史跡纏向遺跡（太田地区）

- | | | |
|------------|------------|------------|
| ④国史跡箸墓古墳周濠 | ⑤国史跡安倍寺跡 | ⑥国史跡纏向石塚古墳 |
| ⑦コロコロ山古墳 | ⑧国史跡艸墓古墳 | ⑨市史跡上之宮遺跡 |
| ⑩朝倉台2号公園 | ⑪朝倉台6号公園 | ⑫市指定史跡兜塚古墳 |
| ⑬国史跡珠城山古墳群 | ⑭国史跡茅原大墓古墳 | ⑮国史跡ホケノ山古墳 |
| ⑯国史跡吉備池廃寺跡 | ⑰特別史跡山田寺跡 | |

(3) 指定文化財の修理・管理

桜井市では指定文化財の修理・管理の必要な経費に対して部分的補助をしており、令和5年度におこなった事業は以下の通りである。

【部分修理】

	内容	所有者
①	国指定重要文化財大神神社三ツ鳥居 三ツ鳥居附瑞垣の修理事業	大神神社
②	国指定重要文化財普門院木造不動明王坐像 向拝屋根の修理事業	普門院(長谷寺)
③	国指定重要文化財大神神社紙本墨書周書〈巻第十九〉 修理事業	大神神社
④	国指定重要文化財談山神社紺紙金銀泥法華經宝塔曼荼羅図 修理事業	談山神社
⑤	県指定天然記念物音羽山観音寺お葉つきイチョウ 改良事業	観音寺

V. 発掘調査事業

令和5年度に民間開発等による埋蔵文化財届出書（93条1）は128件、地方公共団体等による通知（94条1）は10件で計138件を数える。そのうち試掘調査は0件、立会調査は26件、発掘調査は6件であった（表1）。このうち本書では、発掘調査のうち受託事業でおこなった計5件について報告する。

表1 令和5年度発掘調査一覧

No.	調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因	担当者	備考
1	安倍寺跡23次	安倍木材団地1-8-2	5月25日～12月24日	115㎡	範囲確認	飯塚	国庫補助事業
2	大藤原京72次	西之宮313	7月3日～8月7日	160.9㎡	宅地造成	西村	受託事業
3	城島55次	外山1333-1、1334-1	8月3日～9月5日	112㎡	宅地造成	飯塚	受託事業
4	戒重城跡1次	戒重450-1の一部	9月22日～10月5日	34㎡	賃貸住宅建設	西村	受託事業
5	大藤原京73次	西之宮282、283-1	11月20日～12月15日	104㎡	宅地造成	西村	受託事業
6	大藤原京74次	大福225-1	12月18日～1月30日	169㎡	宅地造成	飯塚	受託事業

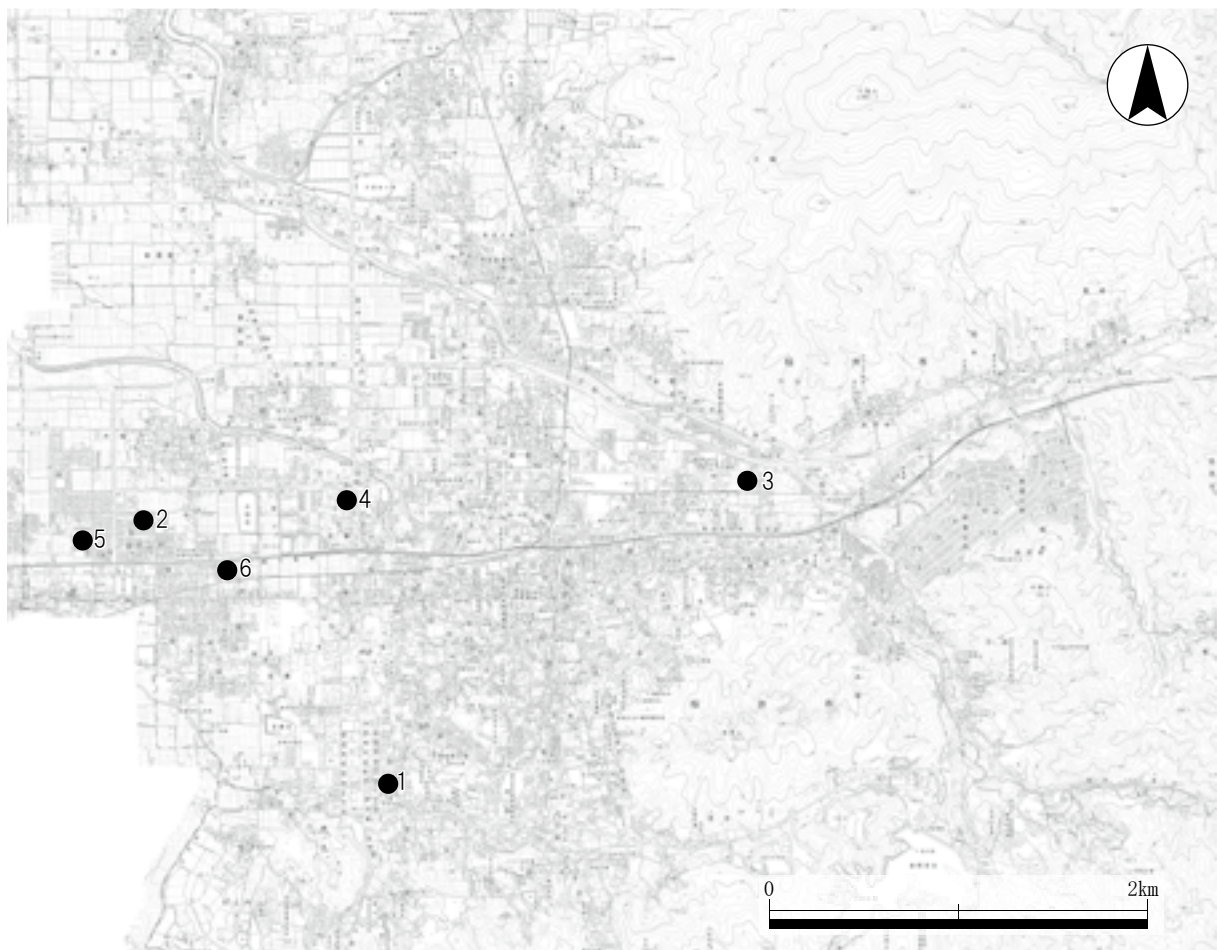


図1 令和5年度 発掘調査地位置図（S=1/40,000）

1. 大藤原京関連遺跡第 72 次発掘調査

1. はじめに

本調査は桜井市大字西之宮 313 において、宅地造成工事に先立っておこなわれた埋蔵文化財発掘調査である。調査地は北を横大路、東を中ッ道、南を阿倍山田道、西を下ッ道に囲まれた地域を藤原京とする岸説藤原京の外側、いわゆる大藤原京の範囲内に位置しており、その東七坊坊間路が通る推定地にあたる。今回の調査の北東側でおこなわれた大福遺跡第 38 次調査では、北二条大路の東西両側溝が検出されている。また、南西側で県立橿原考古学研究所が実施した藤原京左京北一条六・七坊、北二条七坊の調査では、東六坊大路の南北両側溝が確認されている。

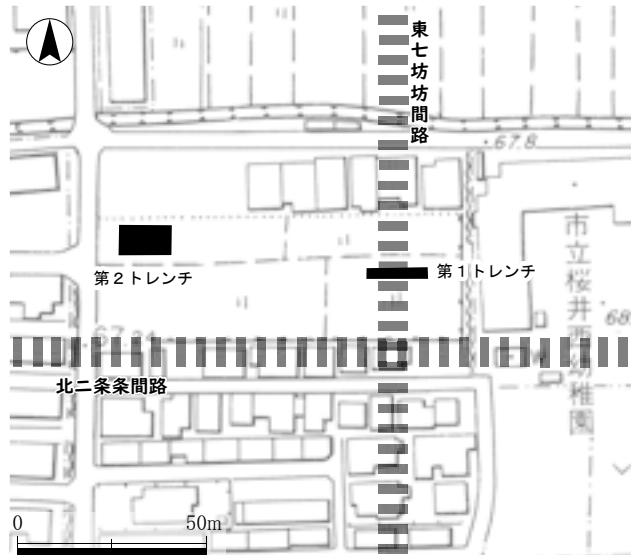


図2 調査位置図 (S=1/2, 000)

第1トレンチ周辺は、藤原京の東七坊坊間路が推定される地点にあたるため、道路側溝の検出を目指して届出地の東側に設定し（東西 16.3 m、南北 3 m）、届出地西側には調整池造成予定地である第



図3 調査区位置図 (S=1/15, 000)

2 トレンチ（東西 14 m、南北 8 m）を設けた。調査面積は 2 ヶ所の合計で 160.9 m²である。現地調査は令和 5 年 7 月 3 日に着手し、同 8 月 7 日に完了している。

2. 調査の内容

（1）第 1 トレンチの概要と基本層序

基本層序は、現地表面から順に現代耕作土層（第 1 層 層厚 12 ～ 20 cm）、旧耕作土層（第 3 層 層厚 8 ～ 19 cm）、中・近世耕作土層（第 4・5・9・10 層 層厚 20 ～ 38 cm）、藤原京期以前の堆積層（第 26 ～ 31 層等）、地山層（第 36 ～ 38 層 層厚 1.3 m 以上）である（図 5）。まず、現代耕作土層から地山層上面までを重機で掘削したところ、藤原京期以前の堆積層上面（GL－54 ～－65 cm）から掘り込む遺構を断面検出したため、断面での確認及び地山層上面での遺構検出をおこなった。

その結果、藤原京期の遺構としては、土坑 SX104、南北方向の溝 SX107 を確認した。また、藤原京期以前の遺構としては、出土遺物もなく、詳細な時期は不明であるが南東から北西方向の柵列を確認している。柱穴の間隔は SP101・102・103 が 1.5 m、SP103 と SP108 の間が 1.2 m と不揃いであるが、これら 4 基を柵として復元した。

縄文時代の遺構としては、深さ 20 cm の SX105 と土器溜りを確認した。SX105 からは注口土器の把手が出土しており、時期は縄文時代後期中葉〔北白川上層式 3 期（新）〕と考えられる。

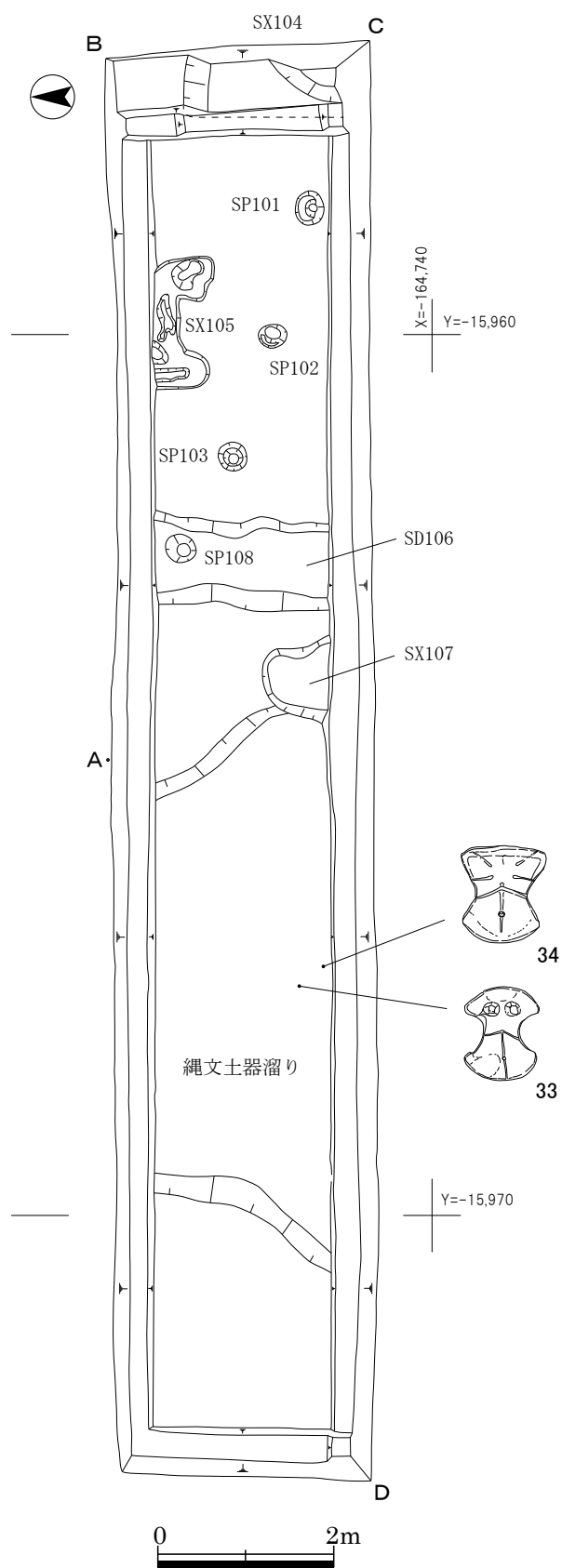
土器溜りからは、石鏃・スクレイパー・楔形石器・剥片・磨製石器などの石器類や、縄文時代後期前葉（四ツ池・芥川式期）の土器片が数点と、SX105 と同じく縄文時代後期中葉〔北白川上層式 3 期（新）〕の土器片がまとまって出土した。また、これらの土器と共に特殊遺物として分銅形土偶の完形品 2 点と土版の破片 1 点も出土している。土器の割合は、出土した縄文土器の 9 割以上を北白川上層式 3 期（新）が占める。

調査区東半では南北溝 SD106 を検出したが、詳細な時期は不明である。

（2）第 2 トレンチの概要と基本層序

基本層序は、現地表面から順に現代耕作土層（第 1 層 層厚 9 ～ 17 cm）、旧耕作土層（第 2 層 層厚 8 ～ 16 cm）、近世耕作土層（第 3・4 層 層厚 15 ～ 30 cm）、中世耕作土層（第 5 層 層厚 7 ～ 40 cm）、地山層（第 14 ～ 17 層 層厚 75 cm 以上）である（図 8）。まず、現代耕作土層から中世耕作土層までを重機で掘削し、地山層上面（GL－54 ～－70 cm）で中世素掘溝や藤原京期の遺構を検出したため、これ以下を人力で掘削をおこなった。

地山層上面で遺構検出をおこなったところ、藤原京期の窪み状遺構 SX201、土坑 SK202、205、206、柵列 SP207、208 を確認した（図 6・7）。SX201 からは土師器坏、蓋、高坏の破片や、須恵器坏、壺の破片が出土している。また、系枿の横木が出土しているが、これは下層遺構の SK205 からの混ざり込みと考えられるものである。SP207、208 と SP208 の南側の壁面には、柱穴と考えられる痕跡がある。SP207・208 の間は 3 m、SP208 と壁断面で確認した柱穴の間が 4.2 m と不揃いであるが、これら 3 基を柵として復元した。柵列はその検出位置から、条坊道路に囲まれた方形街区内の小区割りの可能性がある。



※分銅形土偶は S=1/4
 図中の A~D は図 5 に対応

図 4 第 1 トレンチ平面図 (S=1/80)

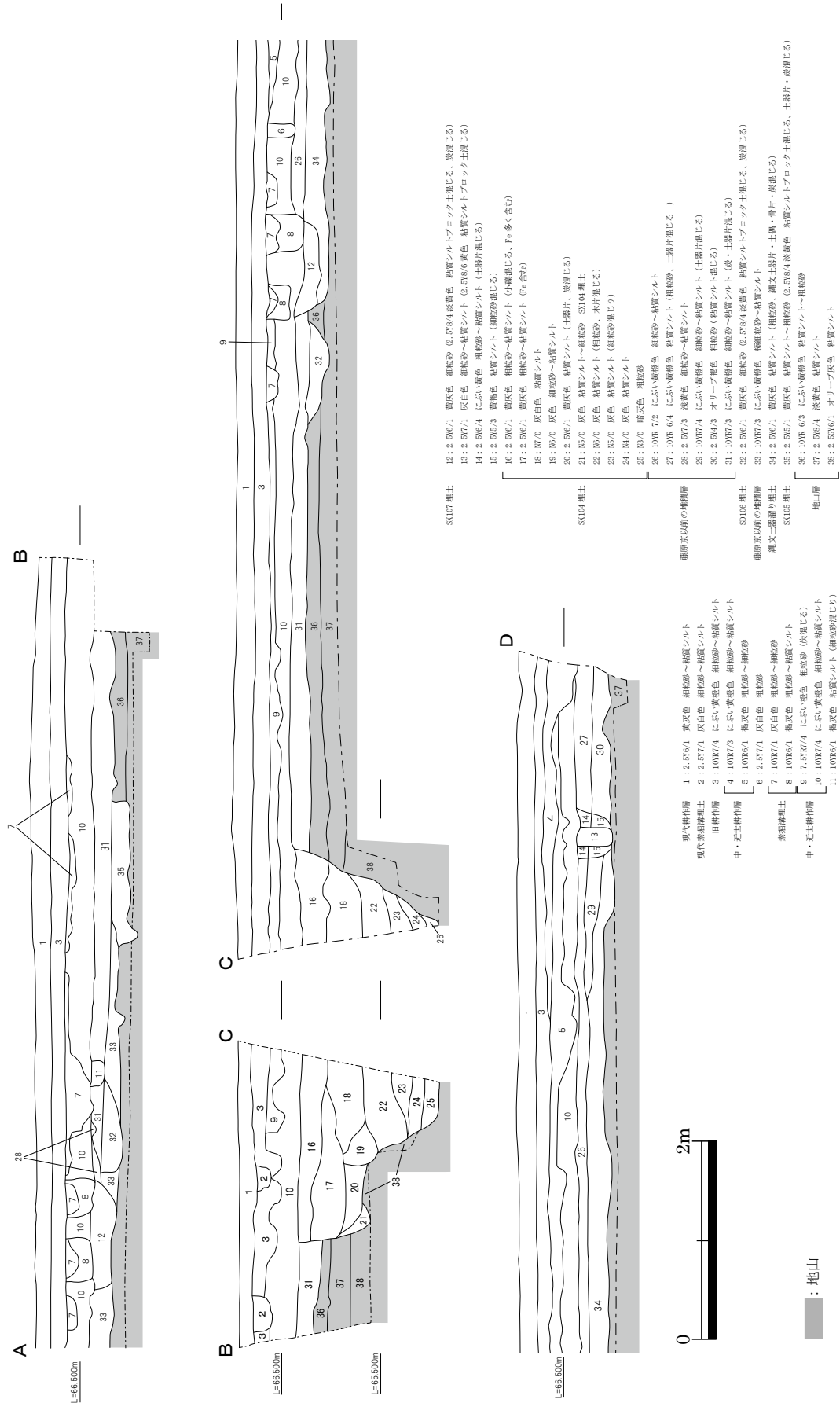
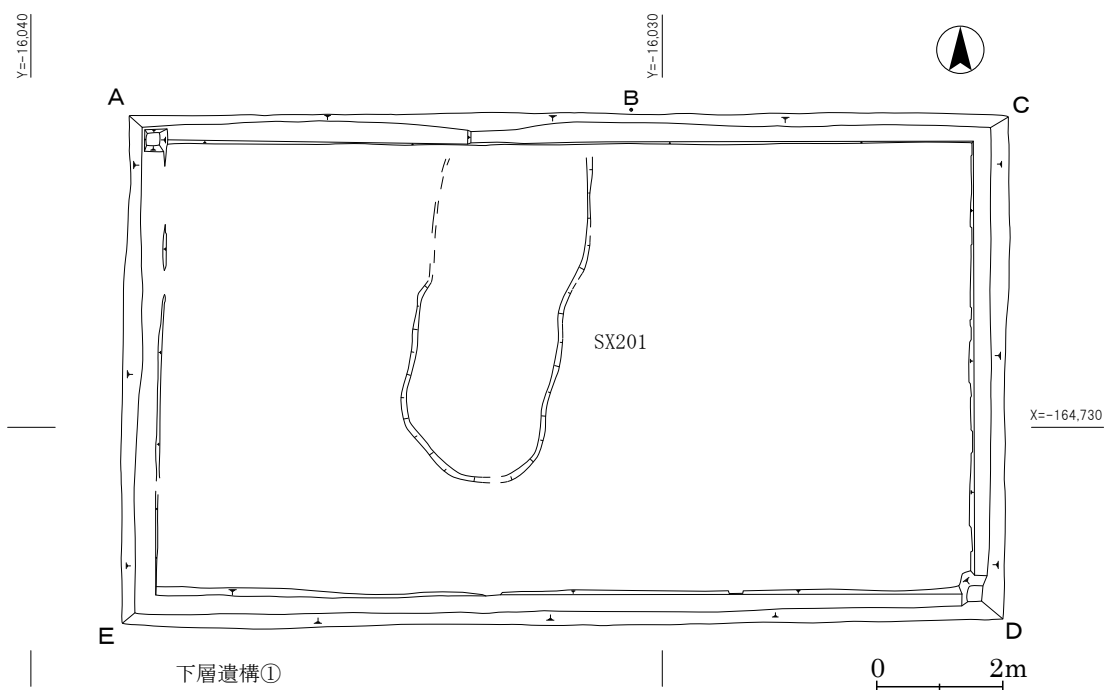
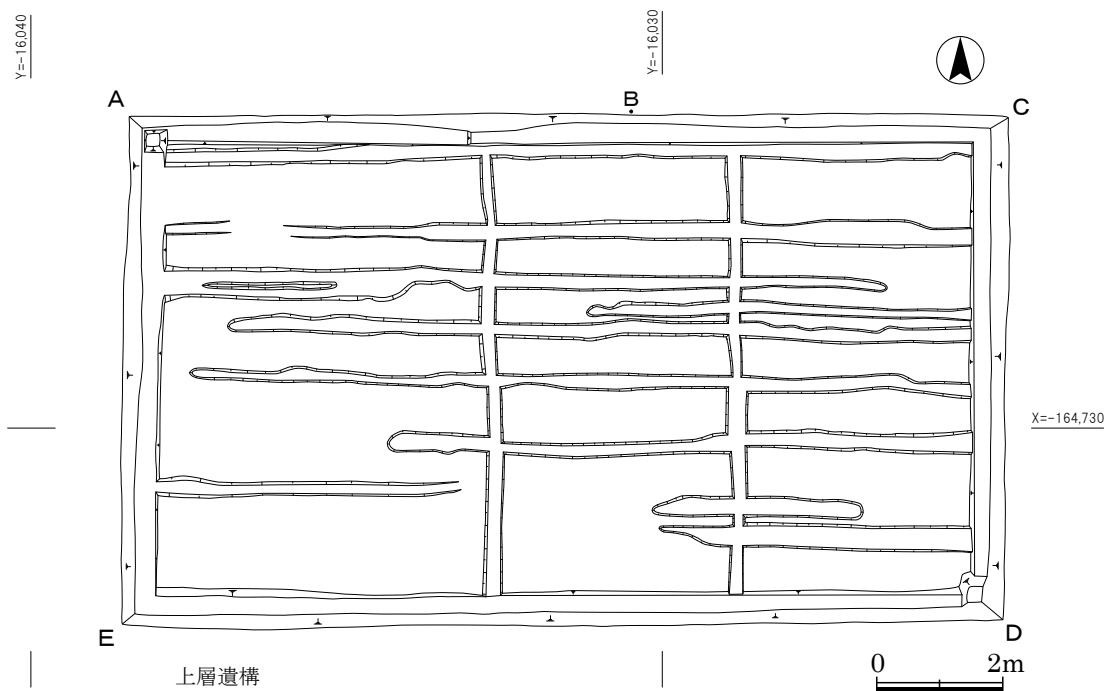
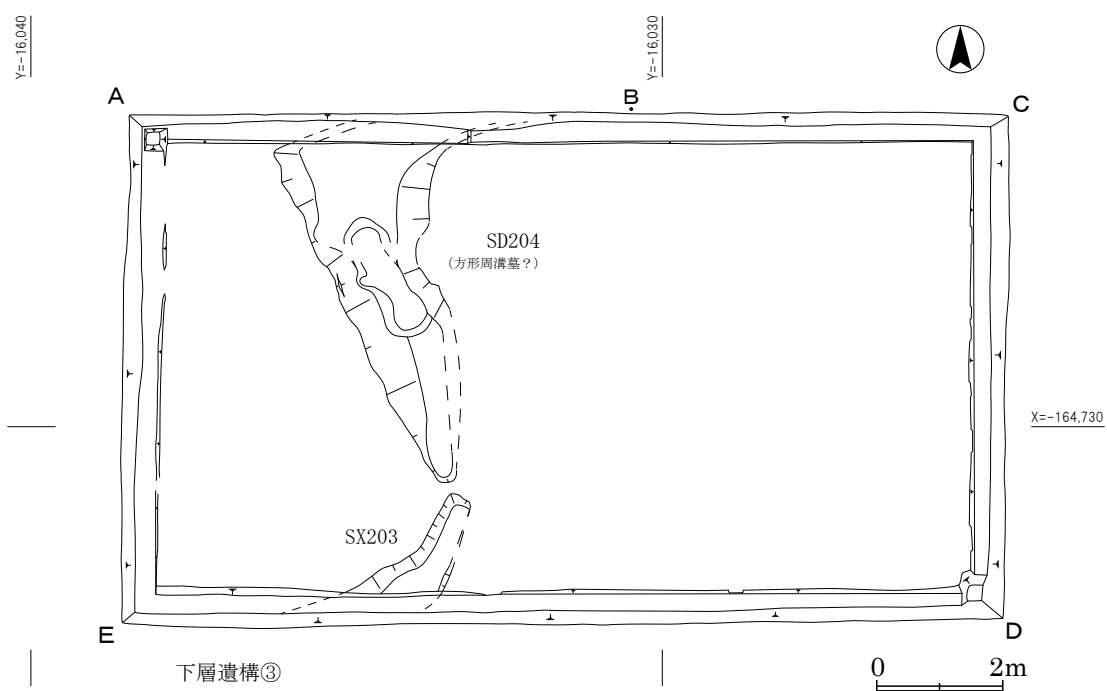
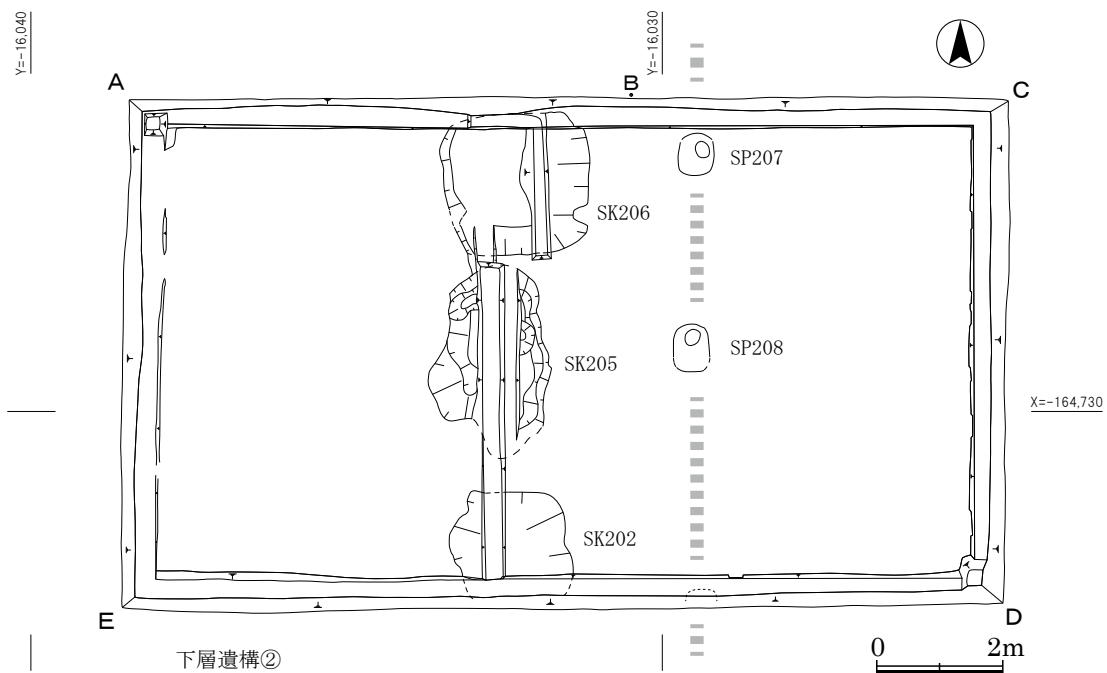


図 5 第 1 トレンチ壁面土層断面図 (S=1/60)



※図中のA～Eは図8に対応

図6 第2トレンチ平面図① (S=1/120)



※図中のA～Eは図8に対応

図7 第2トレンチ平面図② (S=1/120)

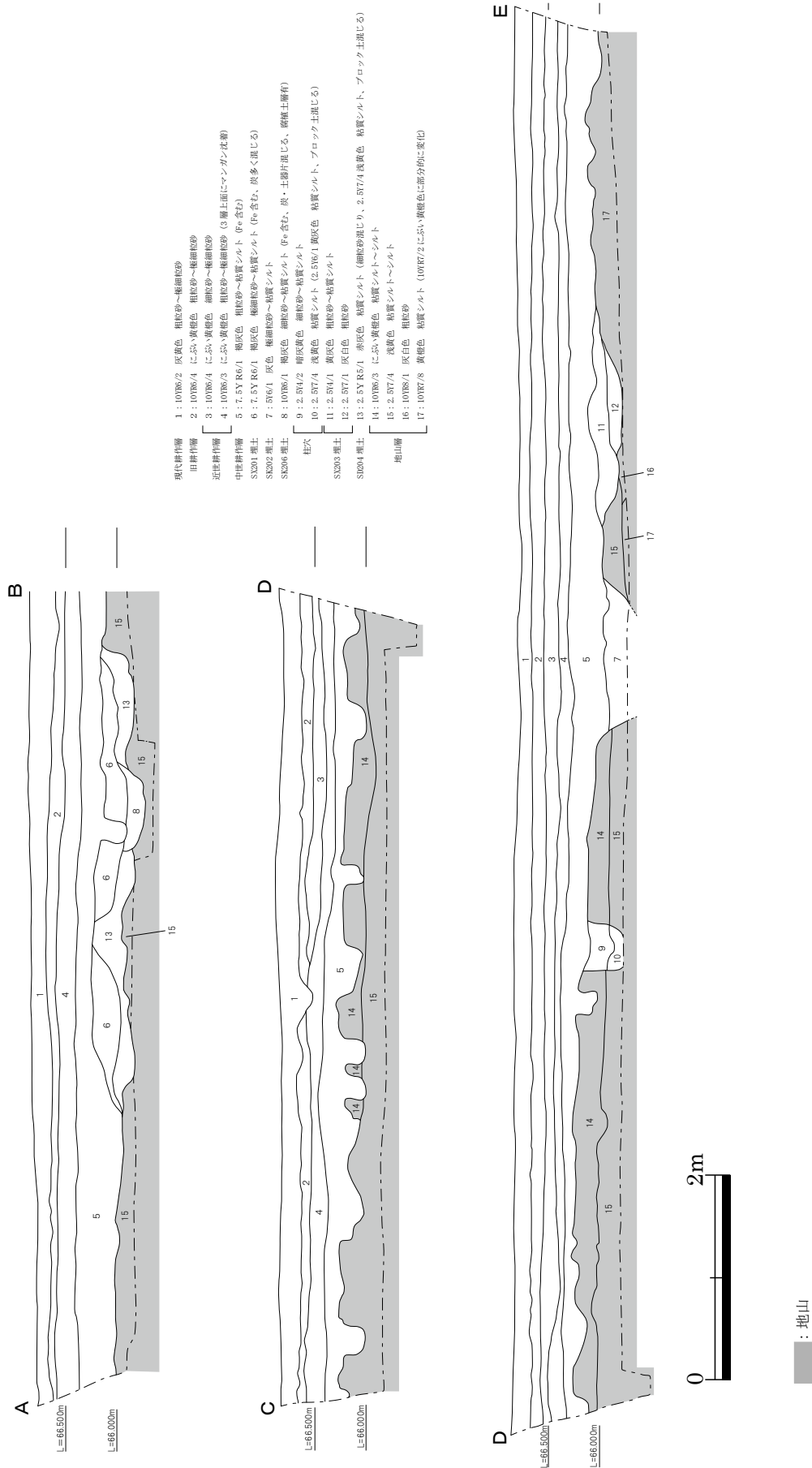


図8 第2トレンチ壁面土層断面図 (S=1/60)

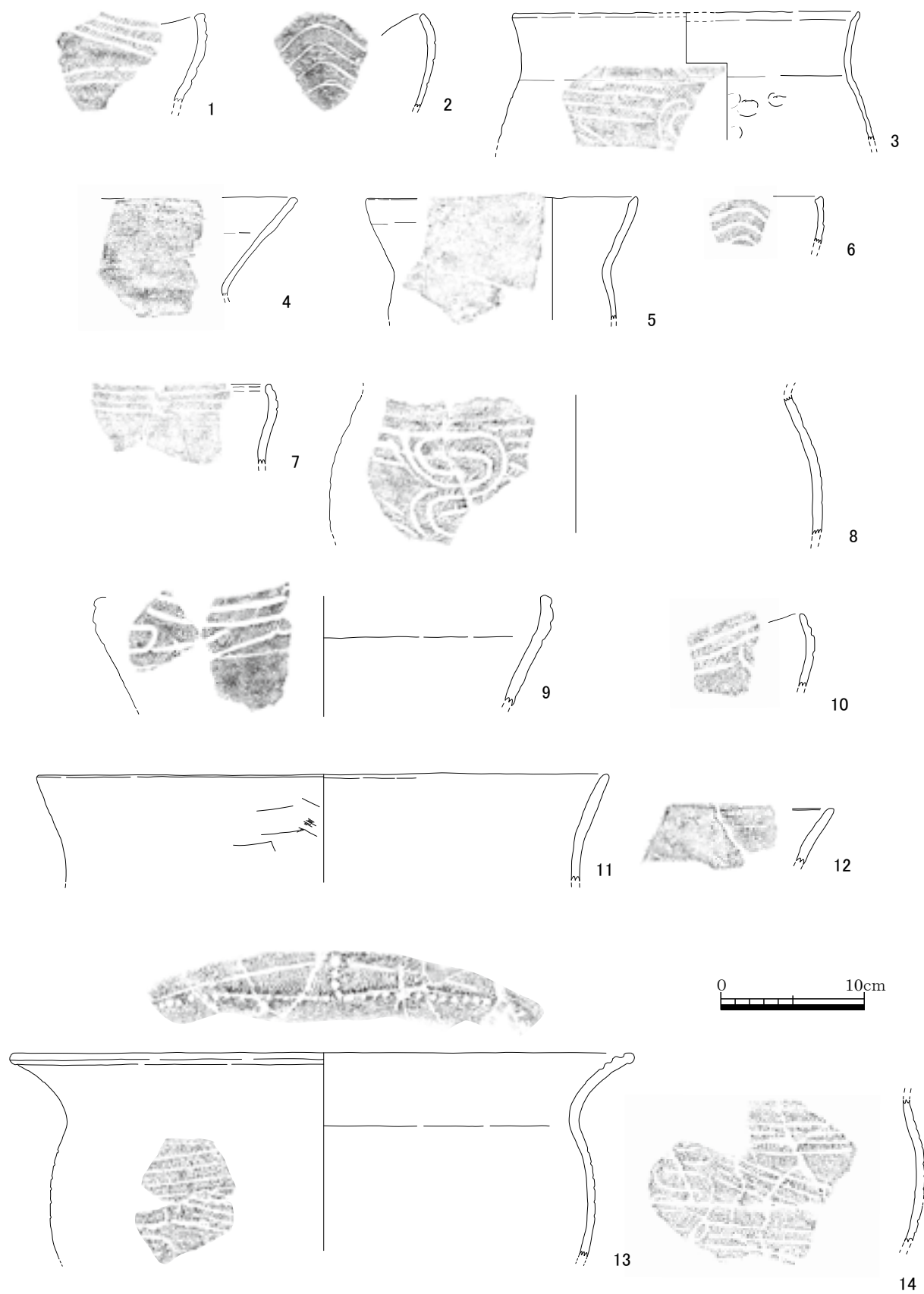


図9 出土遺物実測図①(S=1/4)

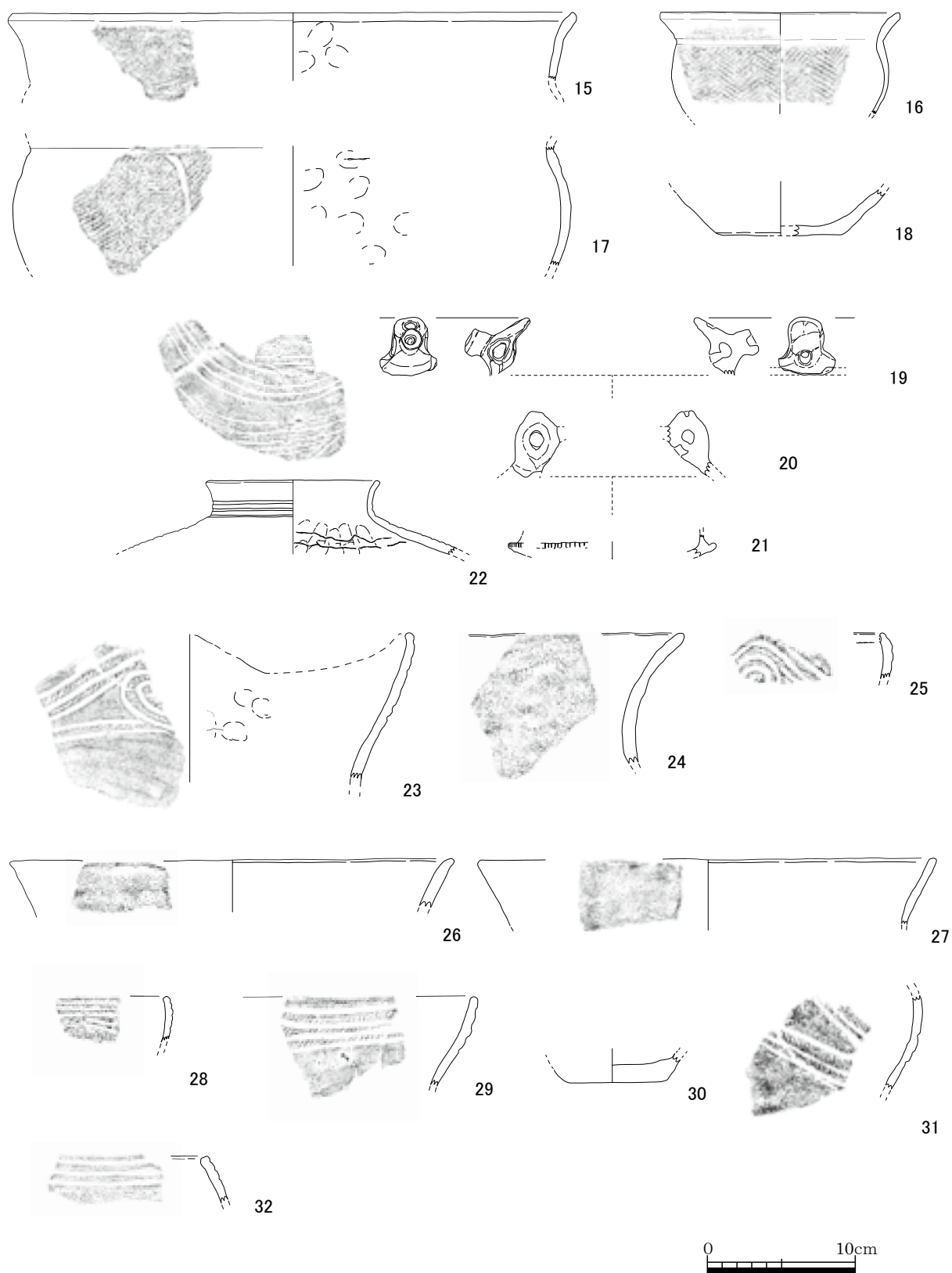


図 10 出土遺物実測図②(S=1/4)

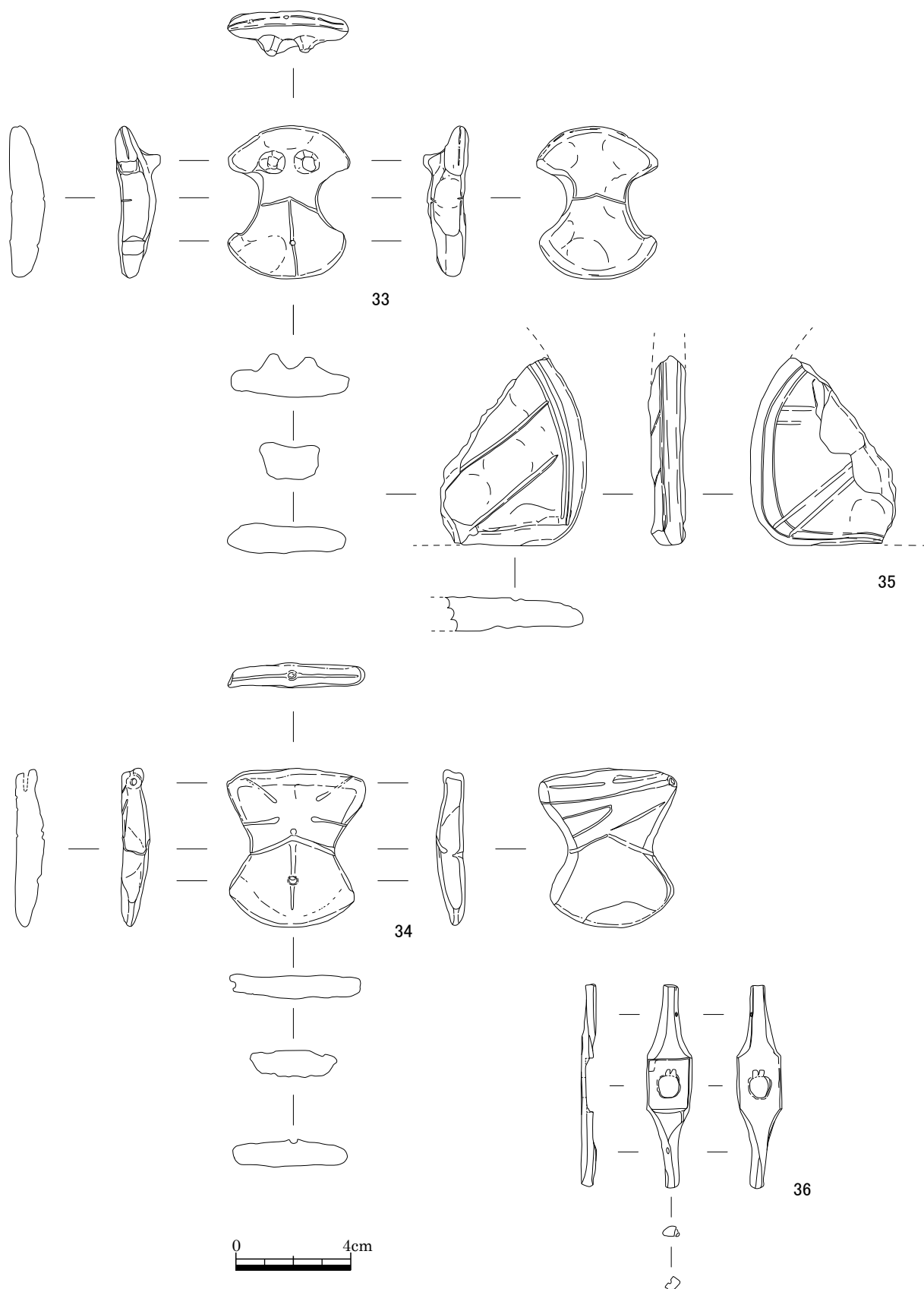


图 11 出土遺物実測図③(S=1/2)

なお、藤原京期以前の遺構としては、北壁沿いでくの字状に曲がる溝 SD204 や溝状遺構 SX203 を確認した。SD204 からは土器の細片が数点出土したものの、遺構の時期の決め手には欠けるため、SX201、SK205、SK206 との重複関係から、藤原京期以前の遺構と推測される。加えて、溝がくの字状に曲がることや、調査区南西約 160 m の地点において県立橿原考古学研究所が実施した調査で弥生時代中期の方形周溝墓が確認されていることから、同様の遺構の可能性も考えられる。また、調査区南半で南西から北東方向に伸びる SX203 も周溝の可能性が高いと推測される。

(3) 出土遺物

本調査で出土した遺物は、縄文土器、土師器片、須恵器片、サヌカイト剥片のコンテナケース 6 箱分である。図化できるものを図 9～11 で示した。個々の遺物の詳細な観察所見等は遺物観察表(表 2)を参照されたい。

1～19、21、22、33～35 は第 1 トレンチの縄文土器溜りから出土した遺物である。20 は第 1 トレンチの SX105 から出土した注口土器の把手である。23～29 は第 1 トレンチの北・南壁の縄文土器溜り埋土中から出土した遺物である。30 は第 1 トレンチの北側溝掘削中に、31 は第 1 トレンチ南側溝掘削中に出土した。32 は縄文土器溜りの上げ土内から出土したものである。33・34 は完形の分銅形土偶である。33 の土偶は乳房と正中線、その正中線から放射状にのびる妊娠線が表現されている。さらに、土偶の頭頂部には一条の溝と穴があけられており、穴は胴部下半にもみられる。足先部分は無文である。34 の土偶は分銅形を保っているが、乳房の表現が欠落しており線だけで装飾されたものである。この他の妊娠線や頭頂部に一条の溝と穴があけられ、穴が胴部下半にもみられる点は 33 の土偶と共通している。足先部分は無文である。36 は第 2 トレンチの SX201 から出土した系枰横木である。横木の中心部は相欠き仕口とし、軸棒を通す孔があいている。また、横木の両端は枰木腹面に差し込むため、棒状に削り出されており、枰木と固定するための小孔が残る。

3. まとめ

調査の結果、第 1 トレンチで藤原京期の遺構と縄文時代後期の遺構を、第 2 トレンチでは藤原京期の遺構を確認した。今回検出を目指した藤原京の東七坊坊間路については、道路の痕跡と積極的にはいえないが、南北方向の溝(SX107、南・北壁第 12 層)があげられる。これまでに確認されている藤原京の坊間路は、溝心々間が 5.9～8 m であることから、SX107 の西側、あるいは東側において並行する溝が存在すると考えられた。仮に SX107 を道路の西側溝とした場合には、東側約 6.8 m の位置に SK104 が掘削されているため、道路側溝が存在していたとは考え難い。一方、SX107 の西側 5.9～8 m 地点においては、中世以降の耕作の影響からか、その痕跡が確認できなかったことから、現段階では SX107 が藤原京の東七坊坊間路の道路側溝の可能性があるとしておく。今後、藤原京や東七坊坊間路を検討する上での大きな成果と言えるであろう。

このほか、縄文時代後期中葉[北白川上層式 3 期(新)]の土器が出土した点も非常に重要である。縄文土器は破片ではあるがまとまって出土しており、これらの土器群と共伴して石鏃やスクレイパー

等の石器類、分銅形土偶の完形品が2点と土版が出土したことは、縄文時代後期の人々の生活や思想などを検討する上での重要な資料であるといえよう。また今回、分銅形土偶の検討中に纏向遺跡第152次調査出土の性格不明の土製品が分銅形土偶であった事実が明らかになったのをここに記しておく。

※本調査で出土した縄文土器等に関して、岡田憲一氏（県立橿原考古学研究所）に御教示頂きました。末筆ではありますが、記して謝意を表します。（西村）

【参考文献】

大野 薫 2013「列島西部における縄文後期土偶の重層的展開」『第10回土偶研究会奈良県大会資料』土偶研究会

岡田憲一 2020「『平行磨消縄文土器群』の成立-北白川上層式と元住吉山式のあいだ-」『関西縄文時代研究の泉を拓く関西縄文論集4』真陽社

玉田芳英・岡田憲一 2010「近畿」『西日本の縄文土器 後期』真陽社

福辻 淳 2009「纏向遺跡第152次発掘調査報告」『桜井市平成19年度国庫補助による発掘調査報告書第31集』桜井市教育委員会

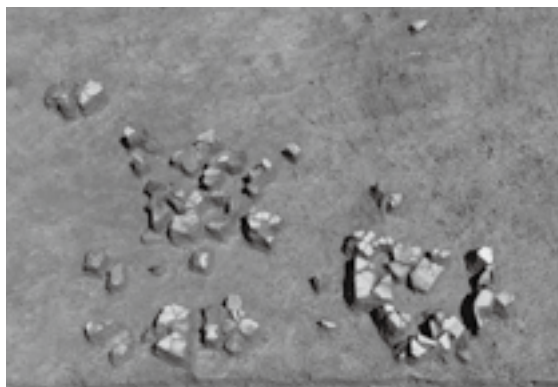
表2 大藤原京関連遺跡第72次調査 出土遺物観察表

図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	法量(cm)			残存	色調	備考
						口径	底径	器高(残高)			
図9-1	縄文土器	鉢	土器溜り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(6.2)	口縁片	外面：7.5YR4/2灰褐色 内面：7.5YR5/4にぶい褐色	
図9-2	縄文土器	深鉢	土器溜り		外面：縄目 内面：ナデ			(6.7)	不明	外面：7.5YR7/2明褐色 内面：7.5YR8/1灰白	
図9-3	縄文土器	広口深鉢	土器溜り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ、指オサエ	(24)		(9)	不明	外面：2.5Y8/2灰白、2.5YR8/3淡黄色 内面：2.5Y8/2灰白から2.5YR7/1灰白 2.5YR6/1黄灰	
図9-4	縄文土器	深鉢	土器溜り 取り上げ NO.1		外面：ナデ 内面：ナデ			(6.8)	不明	外面：10YR7/2にぶい黄褐色 内面：10YR8/1灰白色	
図9-5	縄文土器	鉢	土器溜り		外面：ナデか(ほぼ摩滅)、一部移植 内面：ナデ	(20)		(8.5)	口縁1/8強	外面：7.5YR4/1褐色 内面：7.5YR8/3浅黄橙	
図9-6	縄文土器	深鉢か	土器溜り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(3.3)	口縁片	外面：2.5Y7/2灰黄 内面：2.5Y8/1灰白	
図9-7	縄文土器	鉢	土器溜り 取り上げ NO.3		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(5.5)	口縁片	外面：10YR5/3にぶい黄褐色 内面：10YR7/3にぶい黄橙	
図9-8	縄文土器	深鉢	土器溜り 取り上げ NO.9		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ	頸径 (30)		(9.5)	胴部片	外面：10YR6/2灰黄褐色、10YR4/2灰黄褐色 内面：10YR7/2にぶい黄橙、10YR5/1褐色 色	
図9-9	縄文土器	深鉢	土器溜り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ	(32)		(7.7)	口縁1/18	外面：2.5Y5/2暗灰黄 内面：2.5R6/2灰黄	
図9-10	縄文土器	鉢	土器溜り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(5)	口縁片	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR4/1褐色、10YR5/3にぶい黄褐色	
図9-11	縄文土器	深鉢	土器溜り		外面：ナデ 内面：ナデ	(40)		(7.5)	口縁1/18	外面：10YR4/3にぶい黄褐色 内面：10YR5/2灰黄褐色	
図9-12	縄文土器	深鉢	土器溜り 取り上げ NO.9		外面：ナデ 内面：ナデ			(5.3)	不明	外面：10YR4/2灰黄 内面：10YR6/3にぶい黄褐色	
図9-13	縄文土器	広口深鉢	土器溜り 取り上げ NO.1		外面：ナデ、縄目、一部移植 内面：ナデ、縄目、摩滅	(40)		(14.5)	口縁1/2	外面：10YR6/2灰白、2.5Y7/2灰黄色 内面：10YR7/2にぶい黄褐色	

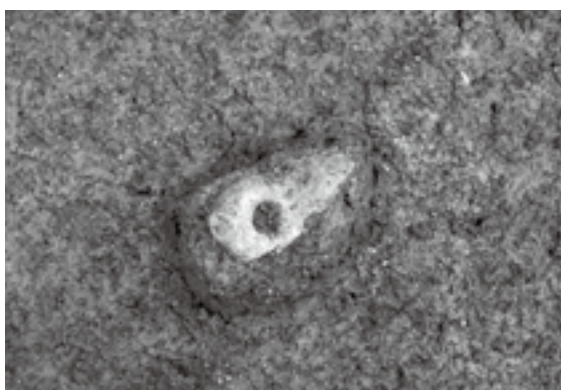
図9-14	縄文 土器	広口深鉢	土器溜り 取り上げ NO.1		外面：ナデ、縄目内面：摩減			(10.5)	頸部から胴 部上	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y7/2灰黄、2.5Y5/1黄灰色	
図9-15	縄文 土器	深鉢	土器溜り 取り上げ NO.5		外面：縄目 内面：ナデ、指オサエ、接合痕	(38)		(4.5)	口縁片	外面：10YR6/2灰黄褐色 内面：N4/灰色	
図9-16	縄文 土器	鉢	土器溜り 取り上げ NO.2		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ	(16)		(6.9)	口縁1/4	外面：10YR7/1灰白、10YR5/2灰黄褐色 内面：10YR6/1褐灰、10YR4/1褐灰	
図9-17	縄文 土器	深鉢	土器溜り 取り上げ NO.5		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ	頸径 (35.4)		(8.1)	頸部から胴 部片	外面：10YR6/2灰黄褐色 内面：N4/灰色	
図9-18	縄文 土器	鉢	土器溜り		外面：ナデ、一部移植 内面：ナデ		8	(2.9)	底部のみ	外面：10YR6/3にぶい黄橙色 内面：10YR6/4にぶい黄橙色	
図9-19	縄文 土器	注口土器 把手	土器溜り 取り上げ NO.12		外面：縄目、ナデ 内面：ナデ、指オサエ			(3.9)		外面：5Y7/1灰白、5Y6/1灰色 内面：5Y6/1灰色、5Y4/1灰色	
図9-20	縄文 土器	注口土器 把手	SX105		外面：ナデ、指オサエ 内面：ナデ、指オサエ			(4.4)		外面：2.5Y8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙色 内面：2.5Y8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙色	
図9-21	縄文 土器	注口土器	土器溜り		外面：ナデ、刻目 内面：ナデ	(14)		(1.5)	口縁1/11弱	外面：7.5YR5/2灰褐色 内面：7.5YR5/1褐灰	
図9-22	縄文 土器	注口土器	土器溜り 取り上げ NO.2		外面：縄目、摩減 内面：ナデ、指オサエ、接合痕	11.2		5	口縁から胴 部肩片	外面：10YR7/2にぶい黄橙色、10YR6/1褐 灰色 内面：5Y7/1灰白、10YR7/2にぶい黄橙	
図9-23	縄文 土器	波状口縁 深鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：縄目、ミガキ 内面：ナデ、指オサエ	(29.6)		(9.5)	口縁部分	外面：10YR4/1褐灰、10YR3/1黒褐色 内面：10YR5/2灰黄褐色、10YR4/1褐灰	
図9-24	縄文 土器	深鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ 内面：ナデ			(8.8)	不明	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR4/1褐灰	
図9-25	縄文 土器	波状口縁 深鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ、剥離			(3)	口縁片	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/2灰白と2.5Y7/2灰黄との中間	
図9-26	縄文 土器	深鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ 内面：ナデ	(30)		(3.3)	口縁1/19	外面：10YR8/4浅黄橙 内面：10YR5/1褐灰色、10YR8/2灰白色	
図9-27	縄文 土器	深鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ 内面：ナデ	(31)		(4.7)	口縁1/15	外面：7.5YR6/3にぶい褐色 内面：7.5YR7/4にぶい橙色	
図9-28	縄文 土器		北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ、縄目、摩減 内面：ナデ			(2.9))	口縁片	外面：2.5Y8/1灰白 内面：7.5YR6/4にぶい橙色	
図9-29	縄文 土器	鉢	北壁・南 壁タヌキ 掘り		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(6.1)	口縁片	外面：7.5YR4/1褐灰色 内面：7.5YR5/8明褐色、7.5YR4/2灰褐	
図9-30	縄文 土器	鉢	北側溝		外面：ナデ、摩減、一部移植 内面：摩減		6	(1.5)	底部のみ全 体不明	外面：7.5YR7/3にぶい橙、7.5YR5/3にぶい 褐色 内面：7.5YR5/6明褐色、7.5YR6/3にぶい褐 色	
図9-31	縄文 土器	深鉢	南側溝		外面：ナデ、縄目、摩減 内面：ナデ			(6.4)	不明	外面：5YR5/2灰褐色 内面：5YR6/4にぶい橙	
図9-32	縄文 土器	鉢	排土		外面：ナデ、縄目 内面：ナデ			(3.1)	口縁片	外面：5YR5/1褐灰色、5YR3/1黒褐色 内面：7.5YR4/1褐灰色	
図9-33 図版2-1	土製品	分銅形 土偶	土器溜り		表面：ナデ 裏面：ナデ	5.3	4.7 2.0 4.1	0.7～ 1.5	完形	表面：2.5Y6/2灰黄 裏面：2.5Y6/2灰黄	
図9-34 図版2-2	土製品	分銅形 土偶	土器溜り		表面：ナデ 裏面：ナデ	5.5	4.8 3.0 4.3	5.0～ 9.0	完形	表面：2.5Y6/2灰黄 裏面：5Y7/2灰白、5Y4/1灰色	
図9-35 図版2-3	土製品	土版	土器溜り		表面：ナデ、指オサエ 裏面：ナデ	(6.5)	(4.8)	(1.2)	全体不明	表面：7.5YR7/3にぶい橙、7.5YR5/1褐灰 裏面：10YR8/1灰白、N4/灰色	
図9-36 図版2-4	木製品	糸梓 横木	SX201		軸孔は円形 梓木と固定するための孔有	7.1	1.6 0.5	0.15～ 0.5	完形		



第1トレンチ西半 遺構検出状況（南東から）



第1トレンチ 縄文土器・分銅形土偶出土状況（上が北）



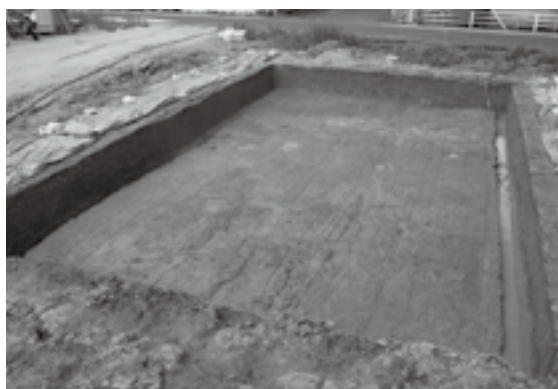
第1トレンチ SX105遺物出土状況（上が北）



第1トレンチ 遺構完掘状況（北西から）



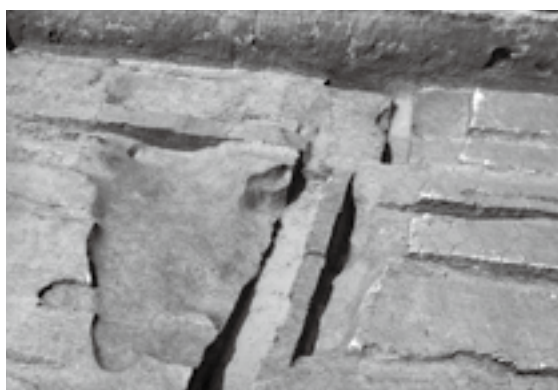
第1トレンチ SX104完掘状況（西から）



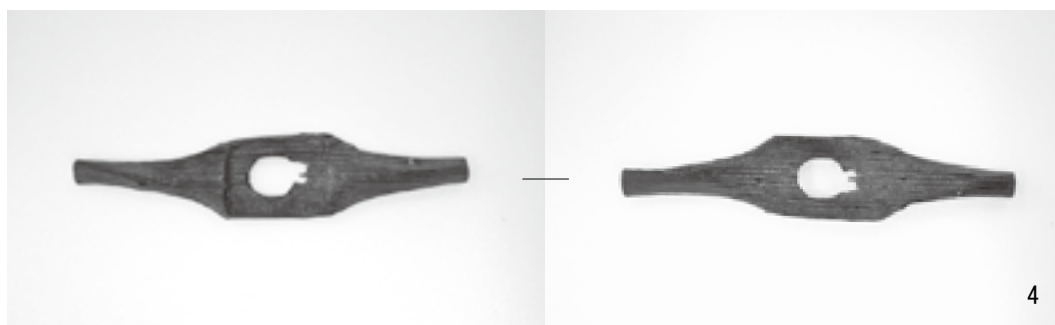
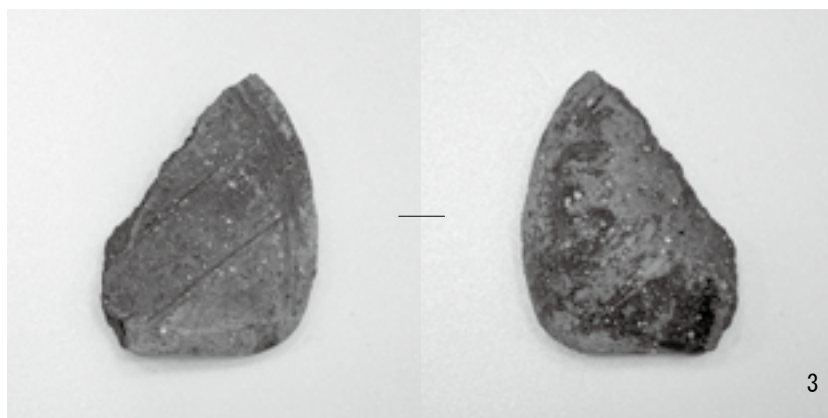
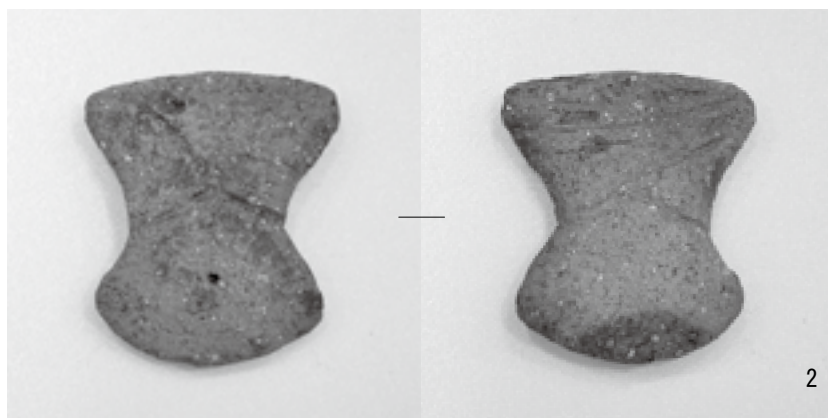
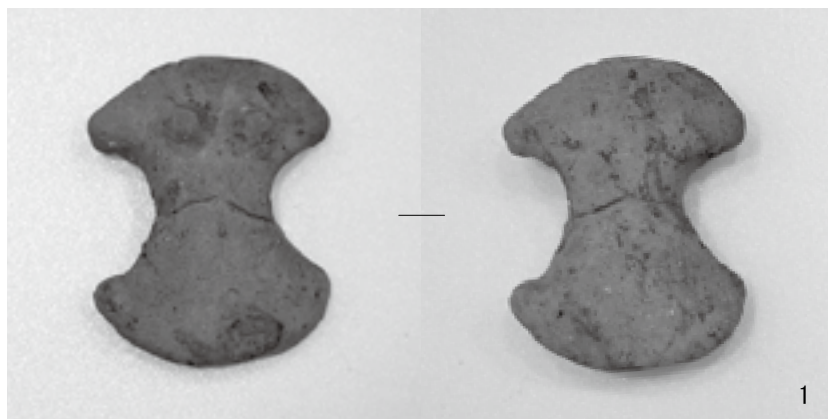
第2トレンチ 素掘溝検出状況（北東から）



第2トレンチ 下層遺構検出状況（南から）



第2トレンチ 下層遺構完掘状況（南東から）



1～3 土器溜り出土遺物 4 SX201 出土遺物

2. 城島遺跡第 55 次発掘調査

1. はじめに

城島遺跡第 55 次調査は桜井市大字外山 1333-1、1334-1 でおこなわれた宅地造成に伴う発掘調査である。

城島遺跡は、初瀬川と栗原川が盆地内に流入する際に形成した扇状地上に立地している。遺跡は主に古墳時代中・後期の集落に伴う遺構が確認されており、鉄生産に関わる鉄滓や鞆羽口といった遺物や水田の遺構などが発見されている。

今回の第 55 次調査は遺跡の東部で実施された。周辺の調査では初瀬川旧流路の範囲が確認されており、また現行の地割とあわせて旧地形の復原がされている。調査地も北へ向かい田畑が一段ずつ低くなっており初瀬川旧流路の影響を受けていると考えられた。

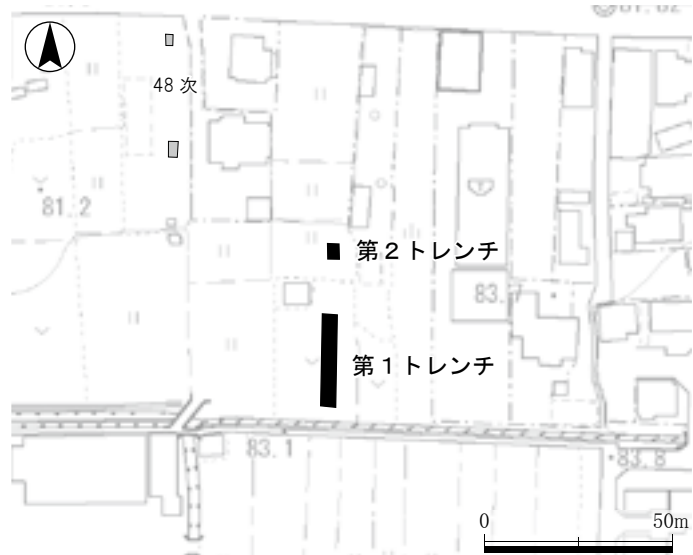


図 12 トレンチ配置図 (S=1/2, 000)

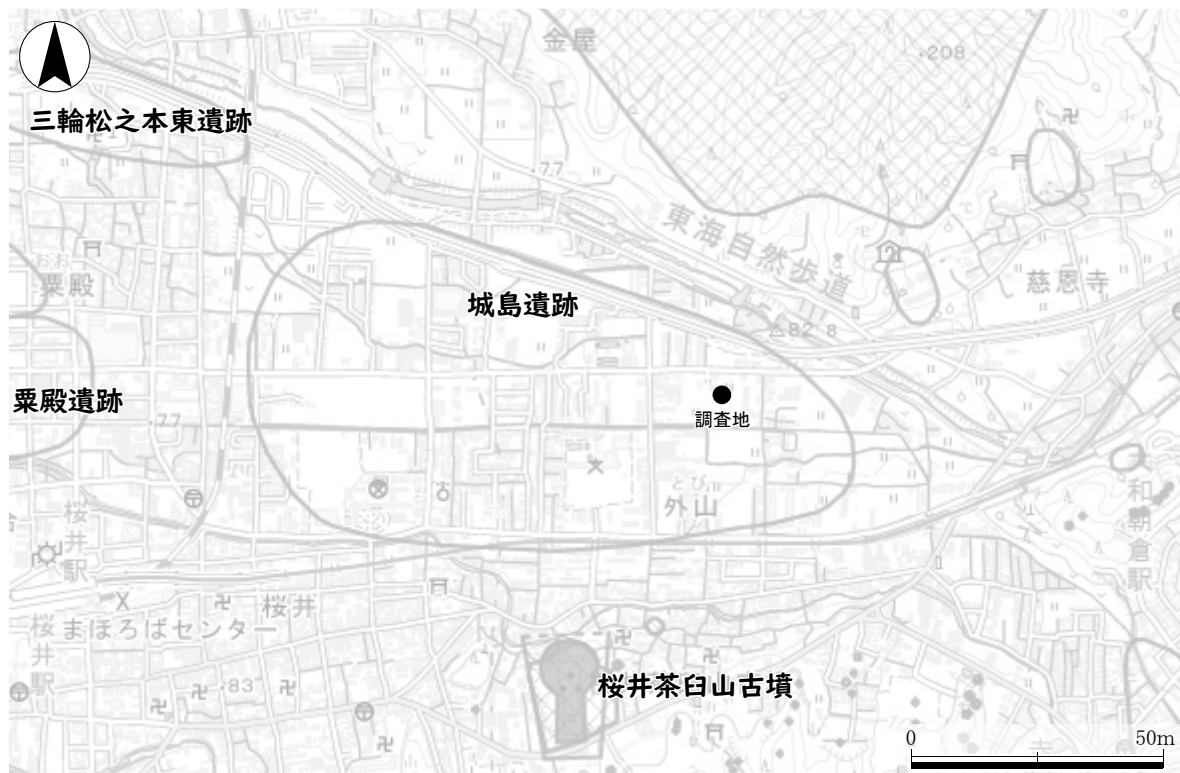
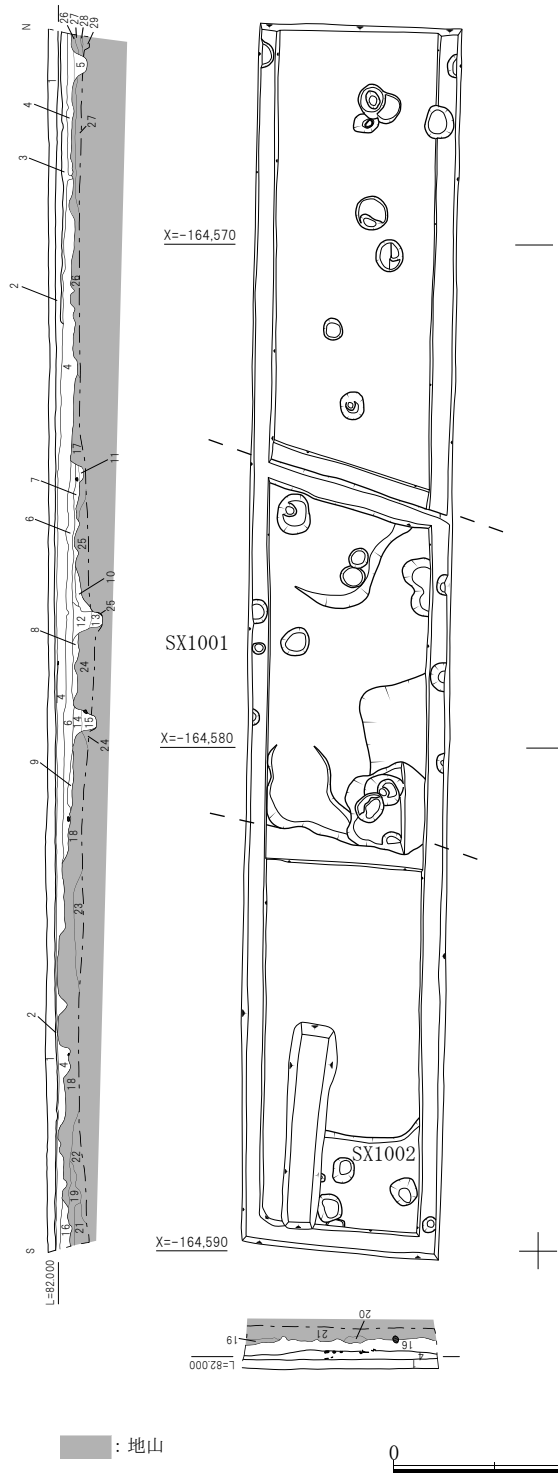


図 13 調査区位置図 (S=1/15, 000)



Y=-12,820



- 現代耕作土 1 : 7.5Y5/2 灰オリーブ色 シルト
床土 2 : 10YR6/8 明黄褐色 シルト
旧耕作土 3 : 10YR7/6 明黄褐色 シルト
包含層 4 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト
5 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト
(ϕ 3 mm ~ 4 cm までの礫含む)
SX1001 埋土 6 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト ~ 細砂
(ϕ 4 cm 程度の礫混じる)
7 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト ~ 細砂
(砂粒多く含む)
8 : 10YR5/6 黄褐色 シルト
SX1001 整地土 (10YR6/4 にぶい黄褐色 細砂 ~ 中砂混じる)
9 : 10YR4/4 褐色 シルト ~ 細砂
(ϕ 2 mm 程度の礫含む)
(5YR6/8 橙色 焼土ブロック混じる)
10 : 10YR4/2 灰黄褐色 中砂
(10YR4/3 にぶい黄褐色シルトブロック混じる)
SX1001 周壁溝埋土 11 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト ~ 細砂
12 : 10YR4/4 褐色 シルト ~ 細砂
13 : 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト ~ 細砂
ピット埋土 14 : 10YR4/4 褐色 シルト
(ϕ 5 mm 以下の礫と ϕ 4 cm 程度の礫少量混じる)
15 : 10YR3/3 暗褐色 シルト ~ 細砂
(細砂ブロック混じる)
16 : 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂質土
(ϕ 3 mm ~ 5 cm 程度の礫含む)
17 : 10YR5/2 灰黄褐色 細砂
18 : 10YR5/2 灰黄褐色 粗砂 (ϕ 10 cm までの礫含む)
19 : 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細砂
(ϕ 5 mm までの礫含む)
20 : 10YR5/2 灰黄褐色粗砂 (ϕ 3 cm 程度の礫含む)
21 : 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細砂
22 : 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂
23 : 10YR4/2 灰黄褐色 細砂
地山 24 : 10YR5/4 にぶい黄褐色 細砂
(ϕ 5 mm 程度までの礫、 ϕ 2 cm 程度までの礫少量混じる)
25 : 10YR4/2 灰黄褐色中砂 (ϕ 1 mm ~ 2 mm 程度)
26 : 10YR5/2 灰黄褐色 細砂
27 : 10YR4/2 灰黄褐色 中砂 ~ 粗砂
(ϕ 4 cm までの礫含む)
28 : 10YR5/2 灰黄褐色 細砂
29 : 10YR5/2 灰黄褐色 細砂 (ϕ 10 cm までの礫含む)

図 14 第 1 トレンチ平面図・断面図 (S=1/150)

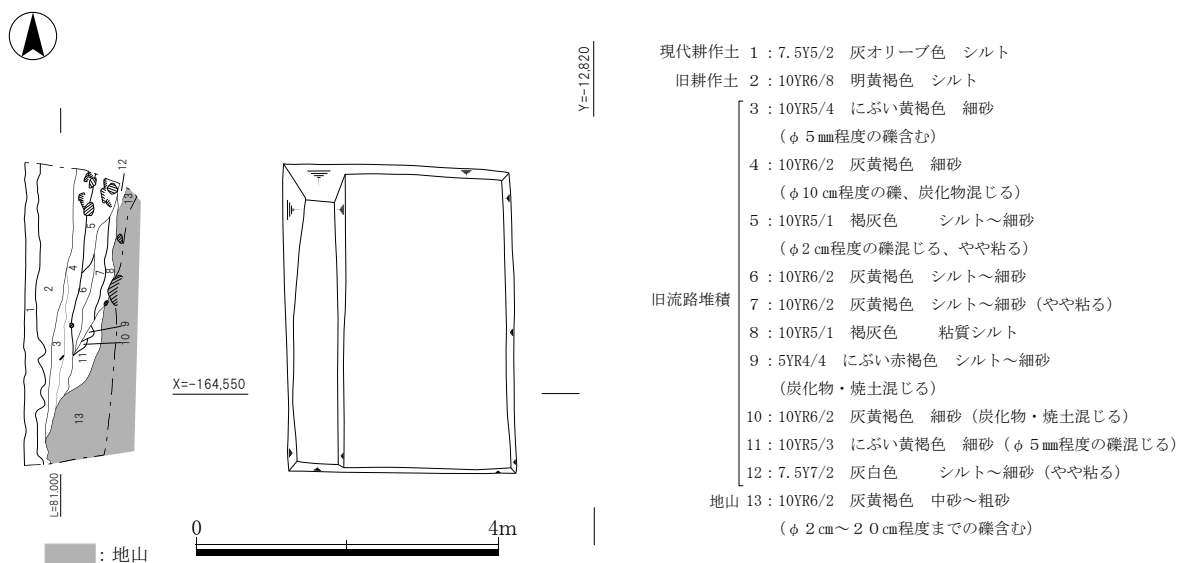


図 15 第2トレンチ平面図・断面図 (S=1/100)

2. 調査の概要

調査は宅地造成の道路部分に2ヶ所の調査区を設定した。南側に設定した第1トレンチは、幅4m×長さ25mで、北側の第2トレンチが幅3m×長さ4mに設定し、調査面積は合計112㎡である。第1トレンチでは、基本層序は表土（灰オリーブ色シルト層）、旧耕作土（明黄褐色シルト層）、包含層（にぶい黄褐色シルト層）、地山（灰黄褐色細砂～粗砂層）となる。

主な遺構としては、竪穴建物と多数のピットを検出した。調査区中央で検出された竪穴住居（SX1001）は検出時の南北幅約7mを測る。住居内部では複数個所で一定範囲にひろがる焼土を確認していることから、本来は造り付けカマドを伴う竪穴住居が2棟以上存在したと考えられる。埋土中からは土師器長胴甕や甑など住居内で使用されていたと考えられる土器の他、製塩土器や鉄滓といった城島遺跡の性格を考えるうえで重要な遺物も出土している（図16）。調査区南端付近でも同じく竪穴住居と考えられる遺構を検出しているが、こちらも一部分を検出したのみであり全体の規模については不明である。竪穴住居からはいずれも須恵器や土師器が出土しており、6世紀半ば頃に埋没したものと考えられる。調査区北側では複数のピットを検出している。いずれも土師器や須恵器の小片が出土したのみで、詳細な時期は不明である。

調査地北側の一段低い敷地に設けた第2トレンチは、基本層序が表土（灰オリーブ色シルト層）、旧耕作土（明黄褐色シルト層）、地山（にぶい黄褐色中砂層）である。地山層は砂礫層からなり、下位になるほど拳大～人頭大の礫が増える。

遺構については検出されず、調査区内全体で地山が北へと落ち込んでいく様子を確認している。この落ち込み内の堆積土からは多数の土器が出土しており、およそ6世紀後半頃に埋没したと考えられる。

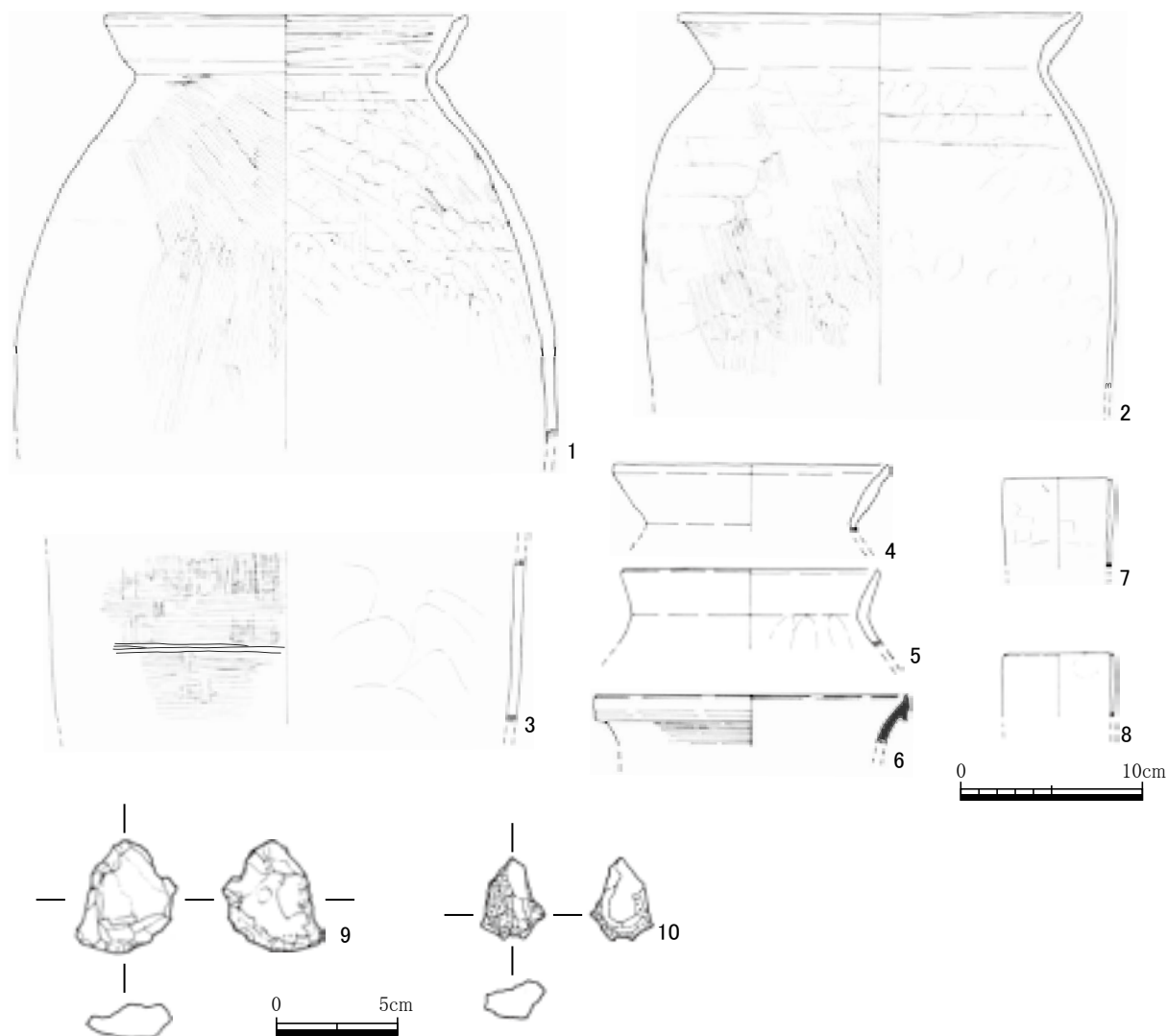


図 16 SX1001 出土遺物実測図 (1～8 S=1/4、9・10 S=1/3)

3. まとめ

第 55 次調査では竪穴住居跡とピット、初瀬川旧流路に関連すると考えられる落ち込みを検出することができた。

城島遺跡では、これまでの調査によって主に遺跡西側に古墳時代中・後期の遺構や遺物が集中することが判明している。それに比べ遺跡東部は、初瀬川が谷を抜け盆地内へと流入する位置にあたり、これまでの調査でも初瀬川旧流路の範囲が確認されていた。しかし今回の調査によって、遺跡東側にも古墳時代後期の竪穴住居が複数棟存在していることがわかり、調査地周辺にもさらに同様の遺構が広がるものと予想される。また、第 1 トレンチより一段低い位置にあたる第 2 トレンチでは落ち込みの肩を検出した。現状の田畑の地割が初瀬川旧流路の範囲を反映していることを改めて確認することができ、また城島遺跡の立地環境を復元する手掛かりを得ることができた。

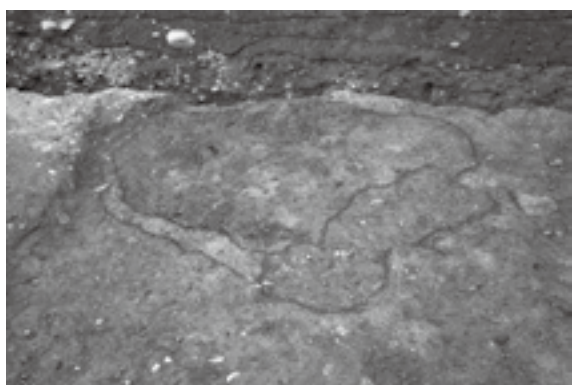
今回の調査では竪穴住居を断片的にとらえたに過ぎないが、今後周辺での調査例の増加を待って、遺跡東部での具体的な遺構の広がりや、利用状況について検討していきたい。(飯塚)



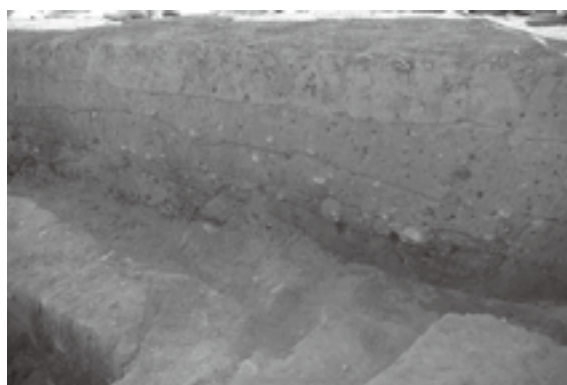
第1 トレンチ全景（南から）



SX1001全景（南東から）



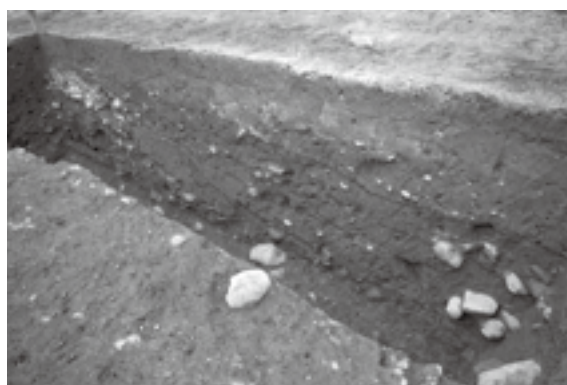
SX1001焼土検出状況（東から）



SX1001西壁（北東から）



第2 トレンチ全景（南から）



第2 トレンチ西壁（北東から）



調査風景



埋戻し後（南から）

3. 戒重城跡第1次発掘調査

1. はじめに

本調査は桜井市大字戒重 450-1 の一部において、賃貸住宅新築工事に先立っておこなわれた埋蔵文化財発掘調査である。戒重城は南北朝期に戒重西阿が築城したものである。暦応4年（1341）の攻防を伝える軍忠状によれば周囲を堀で囲み、塗堀・高櫓を有し、「竹城」とも呼ばれていたことで知られる。西阿の子孫とみられる国見・戒重氏は越智氏に属しており、天正8年（1580）の所領は1,500石であった。同年、戒重氏は筒井氏によって滅ぼされ、城は明智光秀によって接收される。この

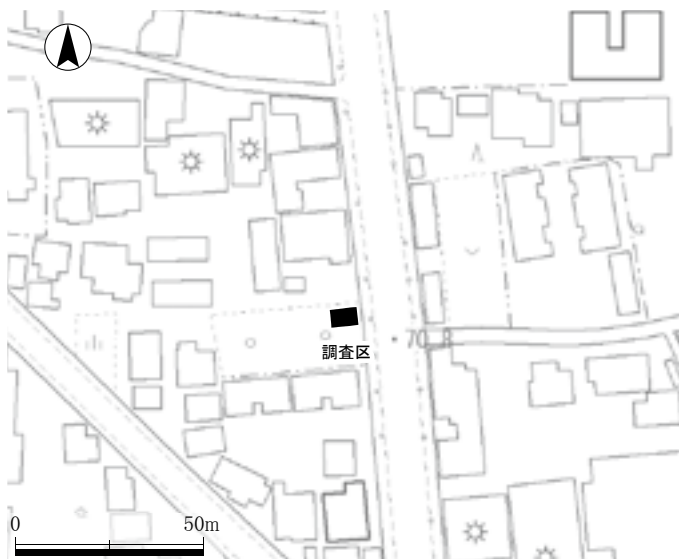


図 17 調査位置図 (S=1/2, 000)

後、元和元年（1600）に織田長益の4男である長政によって戒重城跡に戒重陣屋が営まれた。7代藩主となる織田輔宜の折、延享2年（1745）に陣屋を芝村に移したことにより、戒重陣屋は廃絶する。戒重陣屋は戒重城の堀や土塁等を再利用する形で営まれた可能性が高いが、戒重氏が滅んでから陣屋が営まれるまで20年ほどが経過している。この間に改変もあったであろうし、陣屋がそのまま

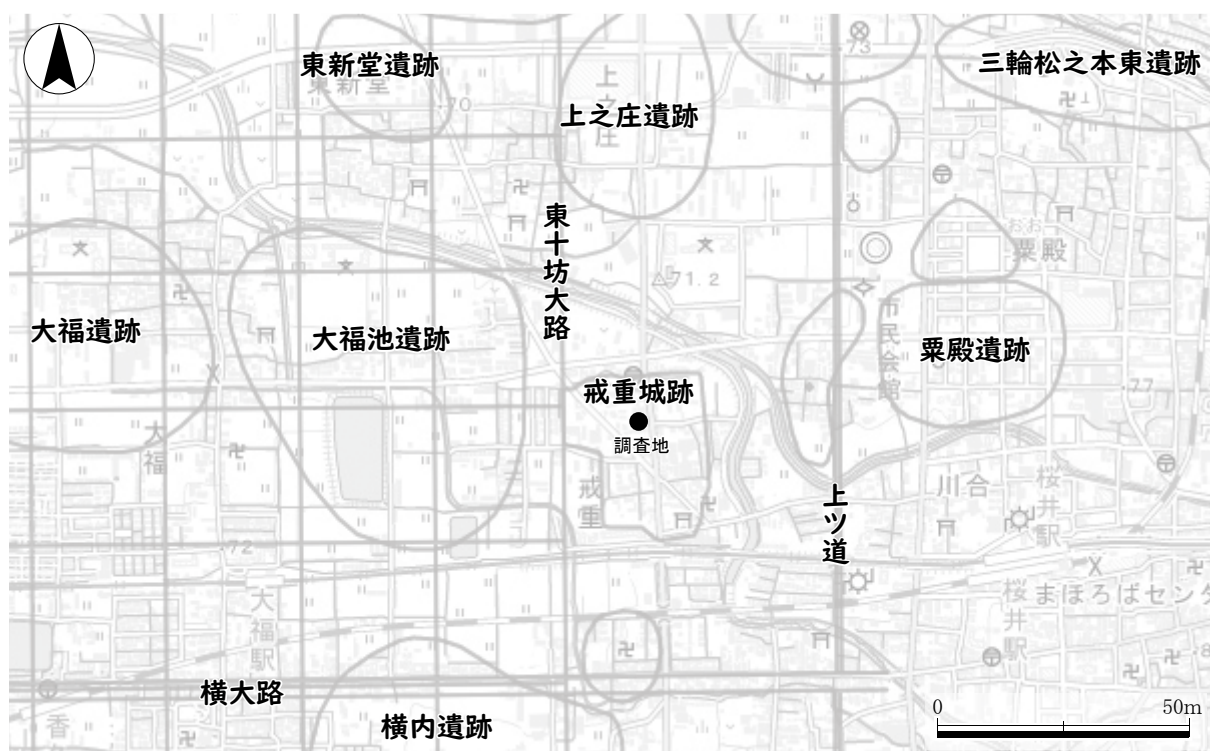


図 18 調査区位置図 (S=1/15, 000)

城館跡を利用していたとは言い切れない。陣屋自体も 18 世紀半ばに廃絶し、その後耕作地・宅地などに利用されているため全体像は不明な状況にある。調査地は、織田丹後守陣屋図（図 19）の中では「御物見」「御土蔵」があったと考えられる場所にあたる。このため、今回は特に江戸時代の遺構の検出が期待された。調査区は開発対象地の東側に東西 7.12 m、南北 4.77 m を設け、調査面積は計約 33.96 m² である。現地調査は令和 5 年 9 月 22 日に着手し、同 10 月 5 日に完了している。

2. 調査の概要

（1）調査の概要と基本層序

基本層序は、現地表面から順に現代耕作土層（第 1 層 層厚 27 ～ 58 cm）、近世盛土層（第 16 ～ 41 層 層厚約 1.37 m）、地山層（第 42・43 層 層厚 21 cm 以上）である。まず、現代耕作土層を重機で掘削し、近世盛土層上面で遺構を検出したため、これ以降を人力で掘削をおこなった。調査の結果、16 世紀以降と考えられる遺構を確認した。

近世盛土層上面では、近世以降の遺構 SX101-A・B、南西から北東方向の溝 SD102、柱穴 SX103・104、円形土坑 SK105 を確認した。SX101 のうち、同時掘削していく中で B を A が削平していると考えられるため、A は攪乱坑と位置づけている。SX101-B は平面円形の掘方を持つ遺構で、中央に石を方形に組んでいる。石は円滑な面を内側に向けており、何らかの設備であったと考えられる。SD102 の東側底部には平瓦と丸瓦が組み合わさったものがある。平瓦は完形で凸面には木質と鉄釘が接着しており、木質は野地板が剥がれた痕跡と考えられる。SX103・104 は西から東に伸び、調査区中央付近を終息とする東西 2.85 m 以上、南北 1.02 ～ 1.53 m の遺構と考えられた。そのため、遺構内全体を段下げしながら掘削を進めた。すると約 34 cm 掘り下げたところで、中央部分が遺物包含層に達し、部分的に遺構埋土が残る形となった。残りの遺構埋土を掘り下げていく中で、2 基の柱穴であることが明らかとなった。それぞれの柱穴部分の規模は、SX103 が東西約 1.32 m、南北約 95 cm、遺構面からの深さ 84 cm、SX104 が東西 53 cm 以上、南北 1.23 m、遺構面からの深さ 73 cm である。SK105 は調査区東側で検出した深さ約 1.7 m の円形土坑であった。

（2）出土遺物

本調査で出土した遺物は、土師器片、須恵器片、陶器、瓦片のコンテナケース 8 箱分である。図化できるものを図 21 で示した。個々の遺物の詳細な観察所見等は遺物観察表（表 3）を参照されたい。

1 は調査区東側溝掘削中に出土したもので、その形状から煙管の火皿と考えられる。2・4 は SX101-A から出土した軒丸瓦・軒平瓦である。3 は SX101-B の石積みを取り外す際に出土した平瓦である。瓦の表面には縦方向に 2 本、横方向に 2 本の線が、それぞれ並行して彫られている。

3. まとめ

今回の調査では石組遺構のほか、土坑 1 基、溝 1 条、柱穴 2 基を確認した。これらの遺構からは、16 世紀以降と考えられる土器片や瓦片が出土していることから、少なくとも 16 世紀を含めてそれ

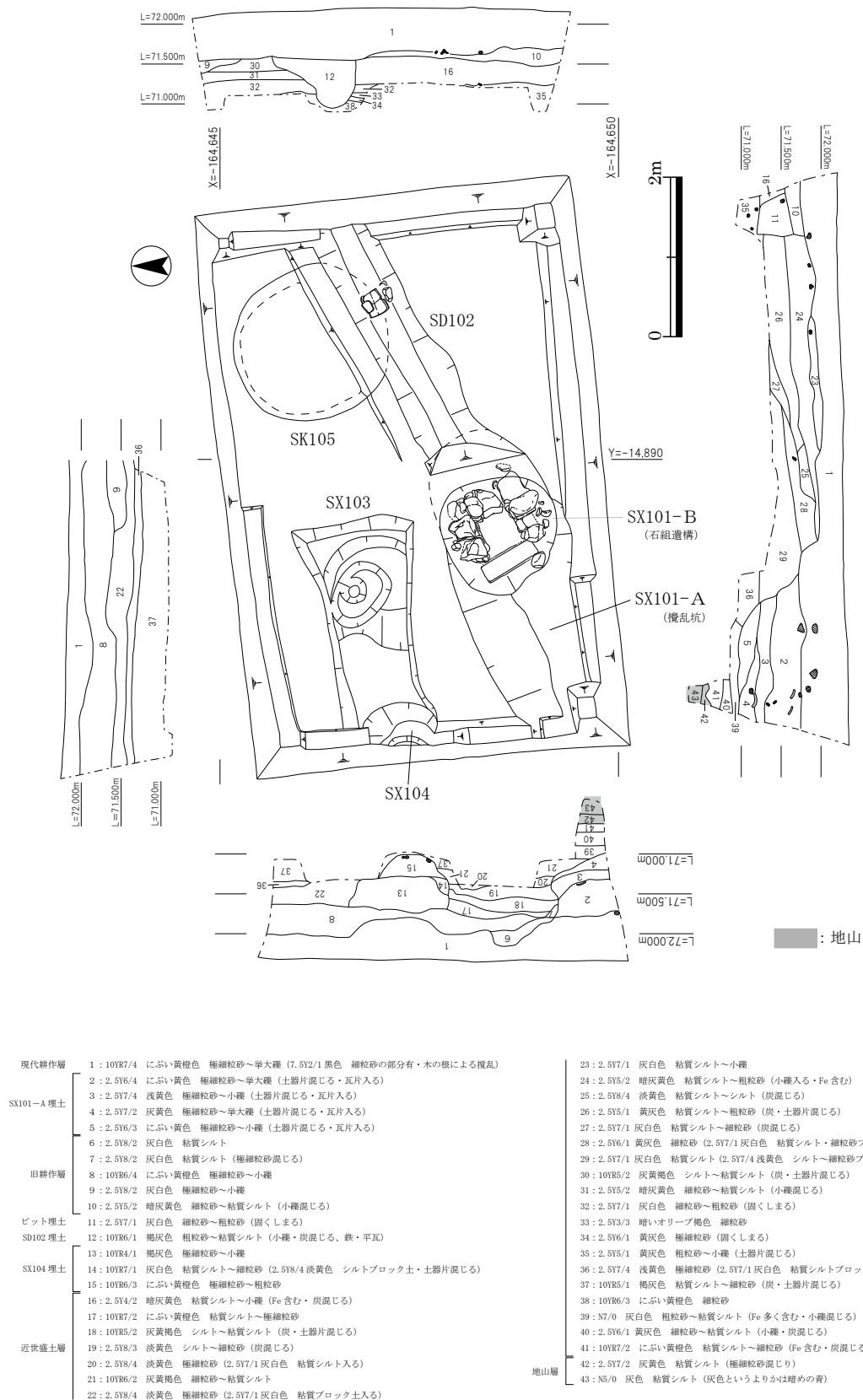


図20 調査区平・断面図 (S=1/80)

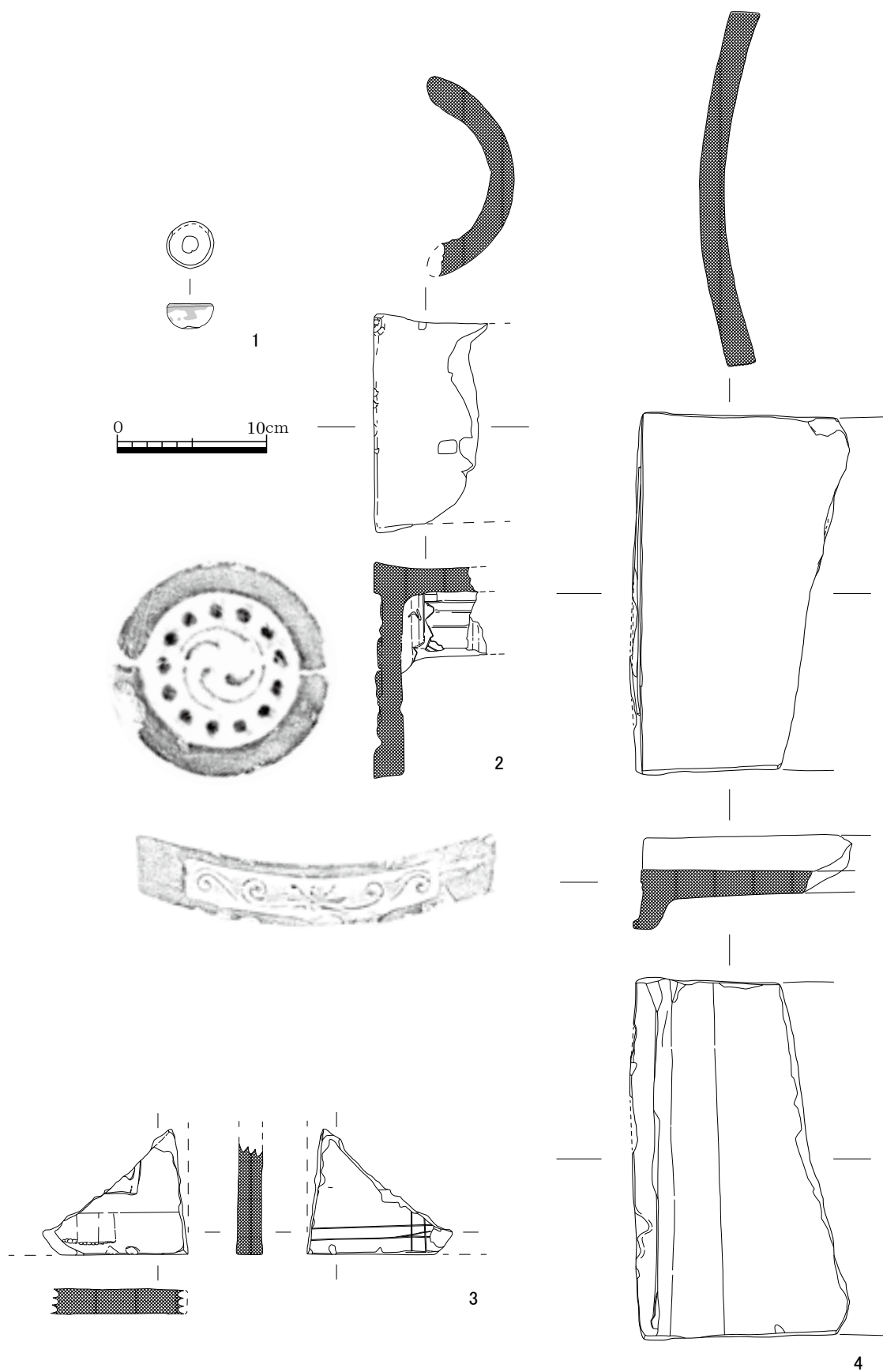


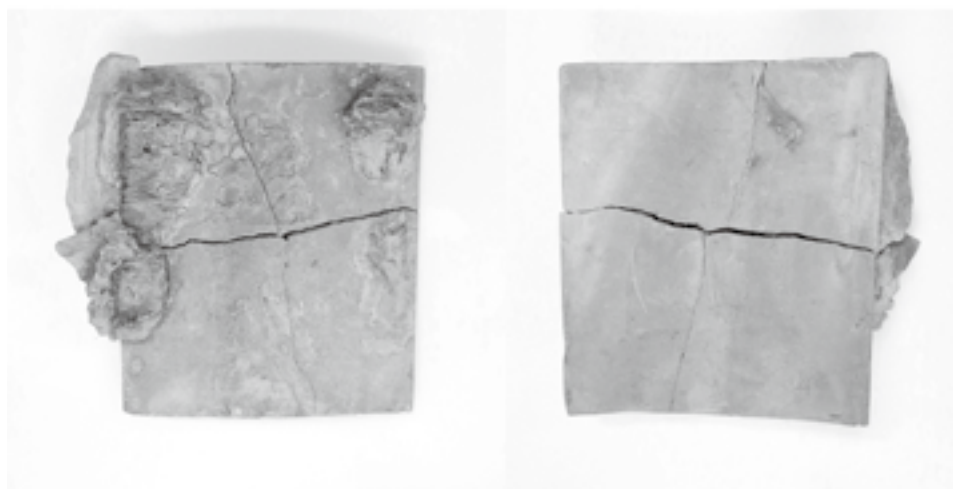
图 21 出土遺物実測図 (S=1/4)

以降に掘削された遺構であると考えられる。また、遺構面の下層には遺物包含層が何層も堆積しており、地山層から 1.37 m 近く盛土がなされていることが明らかとなった。この盛土の一部を掘り下げた際には、炭化物や土師器等の破片が比較的多く出土した。盛土については、南壁（第 28・29 層）、北壁（第 22 層）が人為的に盛られた土塁状の堆積と考えられることから戒重城築城時の可能性がある。しかし、盛土の時期については、限られた調査範囲と一部から出土した土器からの検討であり、その後の戒重陣屋に伴う盛土である可能性も少なからず残ることから、土塁状の盛土が戒重城築城時のものであると断定するには至っていない。

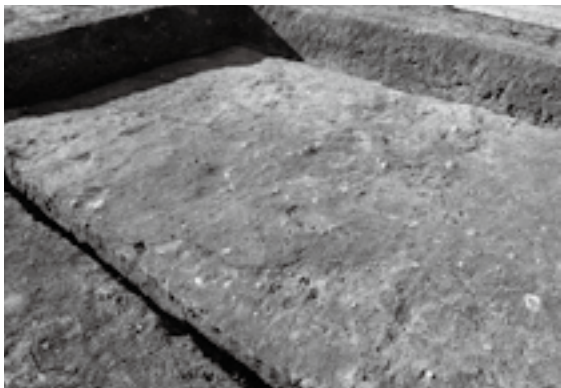
今回の調査地のように、周囲よりも一段高く盛土による地上げが予想される場所については、遺構が残存している可能性が高いと考えられる。ただし、陣屋跡周辺は耕作地・宅地などに利用されているため、それらに関連する遺構などは削平されている可能性も考えられるが、今回の調査で厚い盛土に伴う遺構を確認することができたことは、今後の戒重城や戒重陣屋跡での調査を考える上での重要な成果といえるであろう。今後の調査に期待したい。（西村）

表 3 戒重城跡第 1 次調査 出土遺物観察表

図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他		計測値(cm)				色調	備考
							火皿径	残高				
図21-1	青銅器	煙管 火皿	東側溝				1.4	0.8			外面：やや灰色い緑系の色 内面：N6/灰色	重量：2.5 g
図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	長さ (cm)	瓦頭部(cm)				色調	備考
							直径	内区径	周縁幅	周縁高		
図21-2	瓦	軒丸瓦	SX101-A		瓦頭部：巴左巻、珠数13、珠径1cm 凸面：ナデ 凹面：ナデ、布目	(7.0)	14.5	10	1.8	0.6	凸面：7.5Y4/1灰色、5Y4/1灰色 凹面：7.5Y4/1灰色、5Y4/1灰色	
図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他		計測値(cm)				色調	備考
							長さ	幅	厚み			
図21-3	瓦	平瓦	SX101-B		凸面：ナデ 凹面：ナデ		(8.6)	(7.7)	1.8		凸面：7.5Y6/1灰色、7.5Y5/1灰色 凹面：7.5Y6/1灰色、7.5Y5/1灰色	
図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	長さ (cm)	瓦頭部(cm)				色調	備考
							直径	内区径	周縁幅	周縁高		
図21-4	瓦	軒平瓦	SX101-A		凸面：ナデ 凹面：ナデ	(14.2)	24.1	6.1	16.5	2.25	凸面：2.5Y4/1黄灰、N6/灰色 凹面：N6/灰色、N5/灰色	
写真	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他		計測値(cm)				色調	備考
							長さ	幅	厚み			
	瓦	平瓦	SD102		凸面：ナデ 凹面：ナデ		27.0	24.7	1.9		凸面：2.5Y4/1黄灰色 凹面：10YR4/1褐灰色～N5/0灰色	凸面側に木質と鉄釘、丸瓦が付着



SD102東側底部出土 付着した丸瓦と平瓦



遺構検出状況（南東から）



遺構検出状況（南西から）



調査区全景（西から）



SX101-B 石組出土状況（南西から）



SD102出土 平瓦等（下が北）



調査区南西隅深掘り（北から）



南壁土層断面（北西から）



西壁土層断面（南東から）

4. 大藤原京関連遺跡第 73 次発掘調査

1. はじめに

本調査は桜井市大字西之宮 282、283-1 において、宅地造成工事に先立っておこなわれた埋蔵文化財発掘調査である。調査地は北を横大路、東を中ッ道、南を阿倍山田道、西を下ッ道に囲まれた地域を藤原京とする岸説藤原京の外側、いわゆる大藤原京の範囲内に位置しており、東五坊大路が通る推定地にあたる。今回の調査の北東側の大藤原京関連遺跡第 11 次調査では北二条条間路の南北両側溝が検出されている。また、調査地北の大藤原京関連遺跡第 2・9 次調査では、東五坊大路の東西両側溝が検

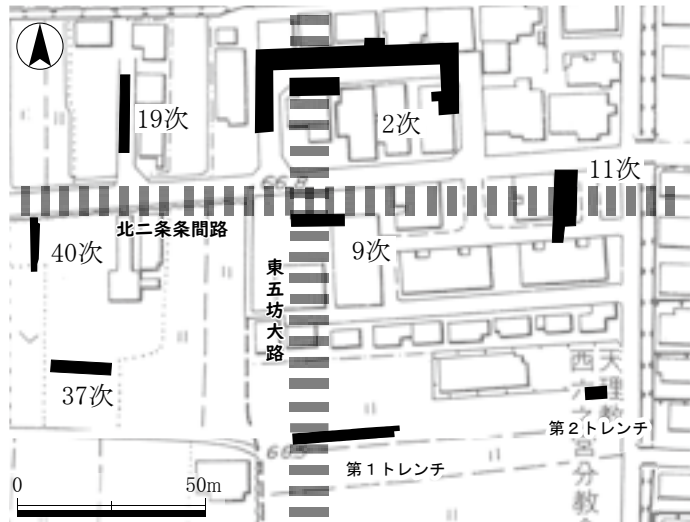


図 22 調査位置図 (S=1/2,000)

出されており、今回の第 1 トレンチ周辺は、その南側の延長部分に推定される地点にあたる。これら藤原京期の遺構検出を目指して、宅地道路敷設予定地内に第 1 トレンチ（東西 26.9 m、南北 3 m）と、調整池造成予定地である届出地東側に第 2 トレンチ（東西 6 m、南北 3.5 m）の 2 ヶ所に調査区を設けた。第 1 トレンチは、発掘調査終盤に東側（東西 1.5 m、南北 1.46 m）への拡張をおこなったため、調査



図 23 調査区位置図 (S=1/15,000)

面積は計約 104 m²となった。現地調査は令和 5 年 11 月 20 日に着手し、同 12 月 15 日に完了している。

2. 調査の内容

(1) 第 1 トレンチの概要と基本層序

基本層序は、現地表面から順に現代耕作土層（第 1 層 層厚 10 ～ 22 cm）、旧耕作土層（第 3 ～ 5 層 層厚 5.6 ～ 32.5 cm）、中・近世耕作土層（第 6 ～ 14 層 層厚 22 ～ 49 cm）、弥生時代中期前葉遺物包含層（第 22 層 層厚 19.2 cm）、地山層（第 23 ～ 29 層 層厚 61 cm 以上）である。まず、現代耕作土層から中・近世耕作土層までを重機で掘削し、地山層上面（GL - 42 ～ - 54 cm）で遺構を検出したため、これ以降を人力で掘削をおこなった。調査の結果、中世素掘溝と藤原京期の遺構を確認した。

地山層上面では、藤原京期の南北溝 SD101・102、柱穴 SP103・104・105・106・107 を確認した。SD101 は埋土の上層部分を中世の耕作により削平されていたが、検出長 2.52 m、幅 1 m 以上、深さ約 20 cm が残存していた。南壁での南北溝底の標高は 65.32 m、北壁での南北溝底の標高は 65.4 m である。SD102 は検出長 2.64 m、幅 1.36 ～ 1.44 m、深さ約 40 cm を測る。南壁での南北溝底の標高は 65.24 m、北壁での南北溝底の標高は 65.2 m であった。SD101・102 は、心々間距離が約 9.5 m であるため、東五坊大路の西側溝と東側溝と考えられる。柱穴 SP103・104・106・107 は、南北棟か東西棟の掘立柱建物、もしくは柵列と考えられる柱穴群である。柱穴掘方の平面形は、隅丸方形や円形を呈し、大きいもので一辺 56 cm の隅丸方形、円形で直径 56 cm を呈している。残存深は 28 cm ～ 44 cm で、4 基の柱穴とも直径約 20 cm の柱痕を確認することができた。

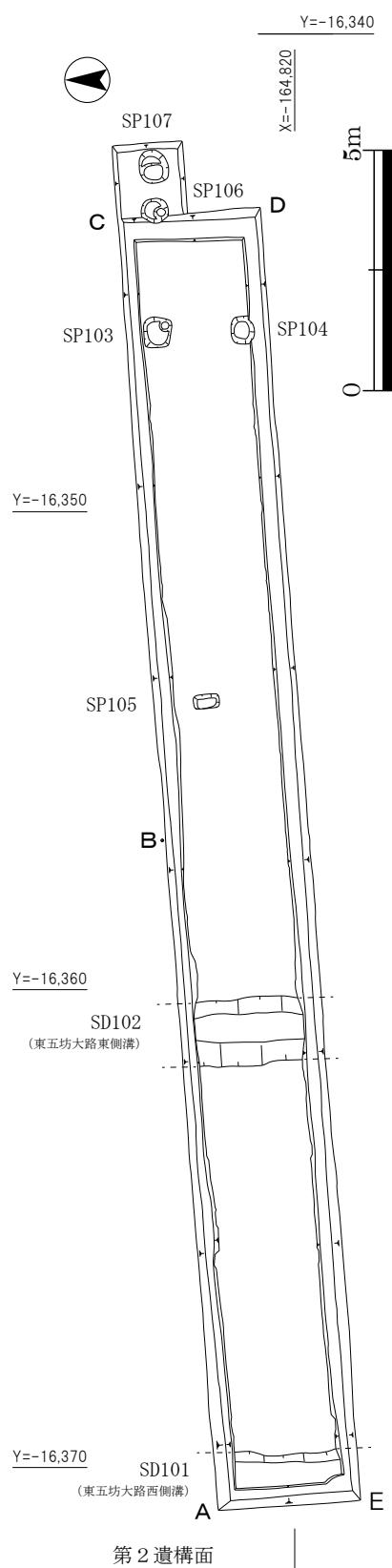
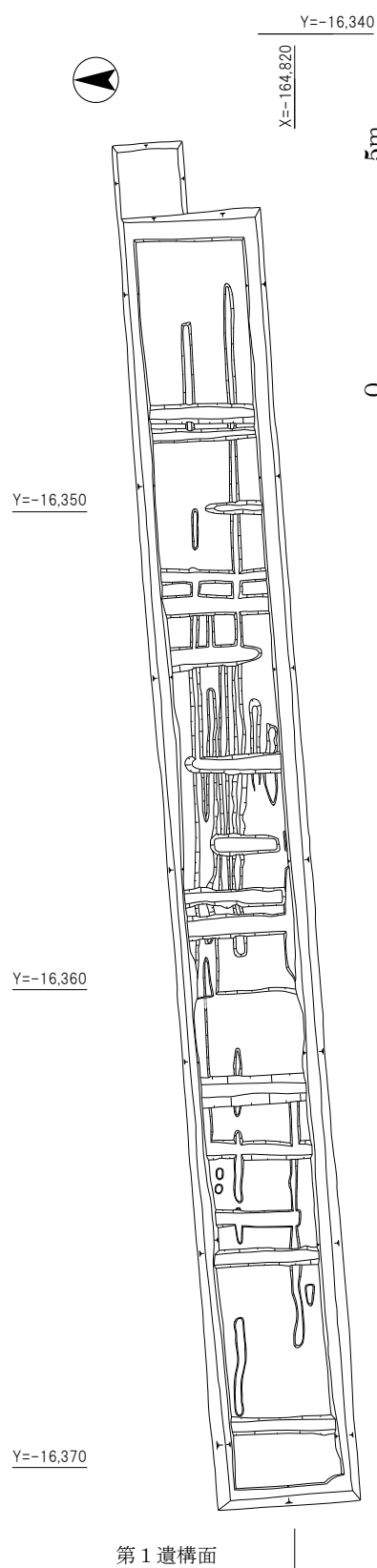
(2) 第 2 トレンチの概要と基本層序

基本層序は、現地表面から順に攪乱土層（第 1 層 層厚 19 ～ 51 cm）、現代耕作土層（第 2 層 層厚約 29 cm）、旧耕作土層（第 4 層 層厚 10 cm）、近世耕作土層（第 5・6 層 層厚 5 ～ 21 cm）、中世耕作土層（第 13 層 層厚 15.5 ～ 23.9 cm）、地山層（第 14・15 層 層厚 43 cm 以上）である。まず、現代耕作土層から中世耕作土層までを重機で掘削し、地山層上面（GL - 56.8 ～ - 72 cm）で遺構を検出したため、これ以降を人力で掘削をおこなった。

地山層上面では、中世素掘溝 SD201、202 と藤原京期の柱穴 SP205、SX203・204 を確認した。SP205 は調査区北東隅で検出した南北約 60 cm、東西約 54 cm、深さ 28 cm の隅丸方形の柱穴である。埋土から須恵器坏身が出土している。SX203 は南北 34 cm 以上、東西約 50 cm、深さ約 10 cm の遺構である。出土遺物が皆無のため、詳しい時期は不明である。SX204 は南北約 40 cm、東西約 36 cm、深さ約 7 cm の遺構である。遺構からは遺物が出土していないため、時期の詳細は不明であるが、SP205 と同じ地山層上面からの切り込みであることから、藤原京期の遺構の可能性がある。

(3) 出土遺物

本調査で出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器のコンテナケース 3 箱分である。図化できる



※図中のA～Eは図25に対応

図24 第1トレンチ平面図 (S=1/150)

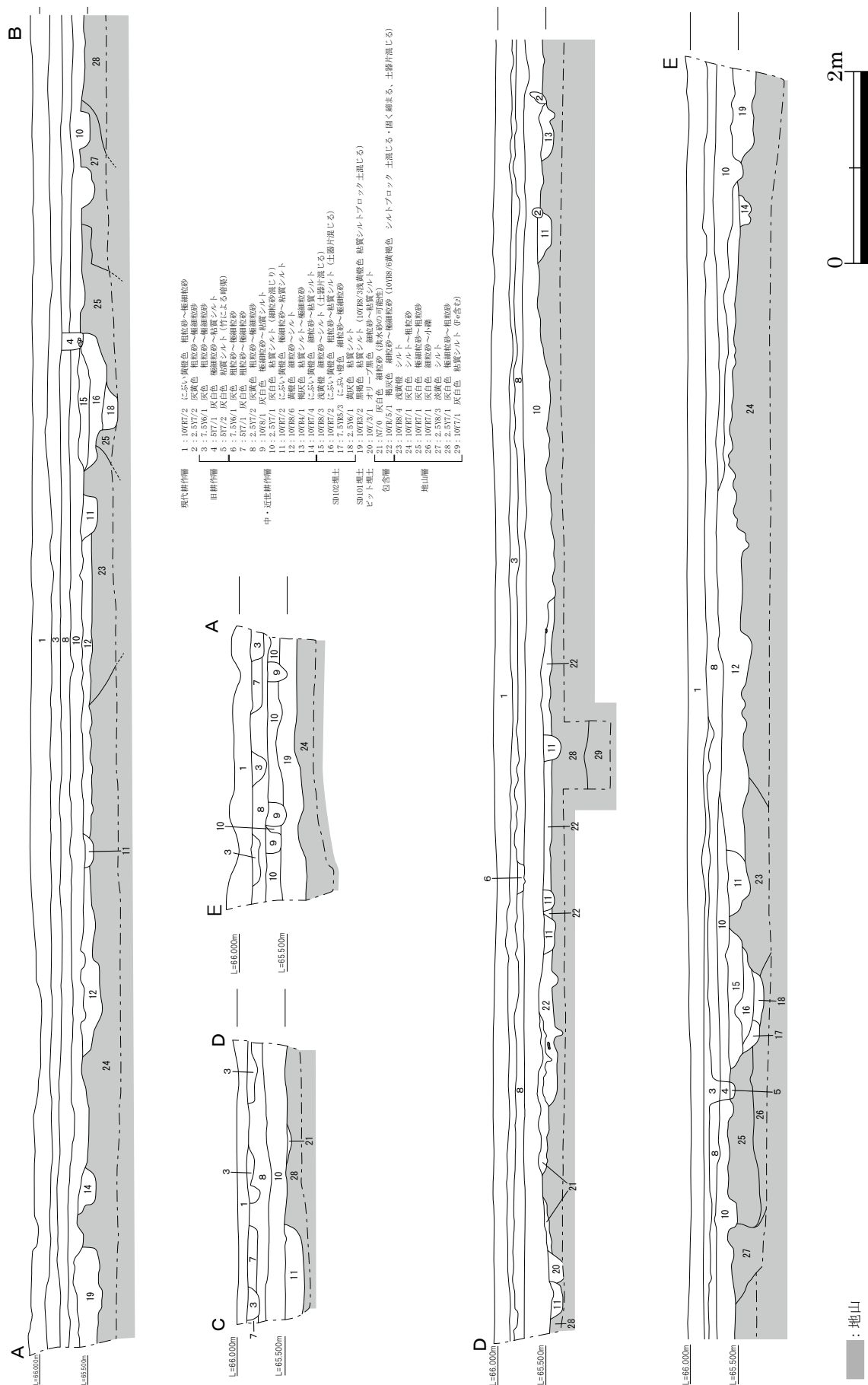


図25 第1トレンチ壁面土層断面図 (S=1/60)

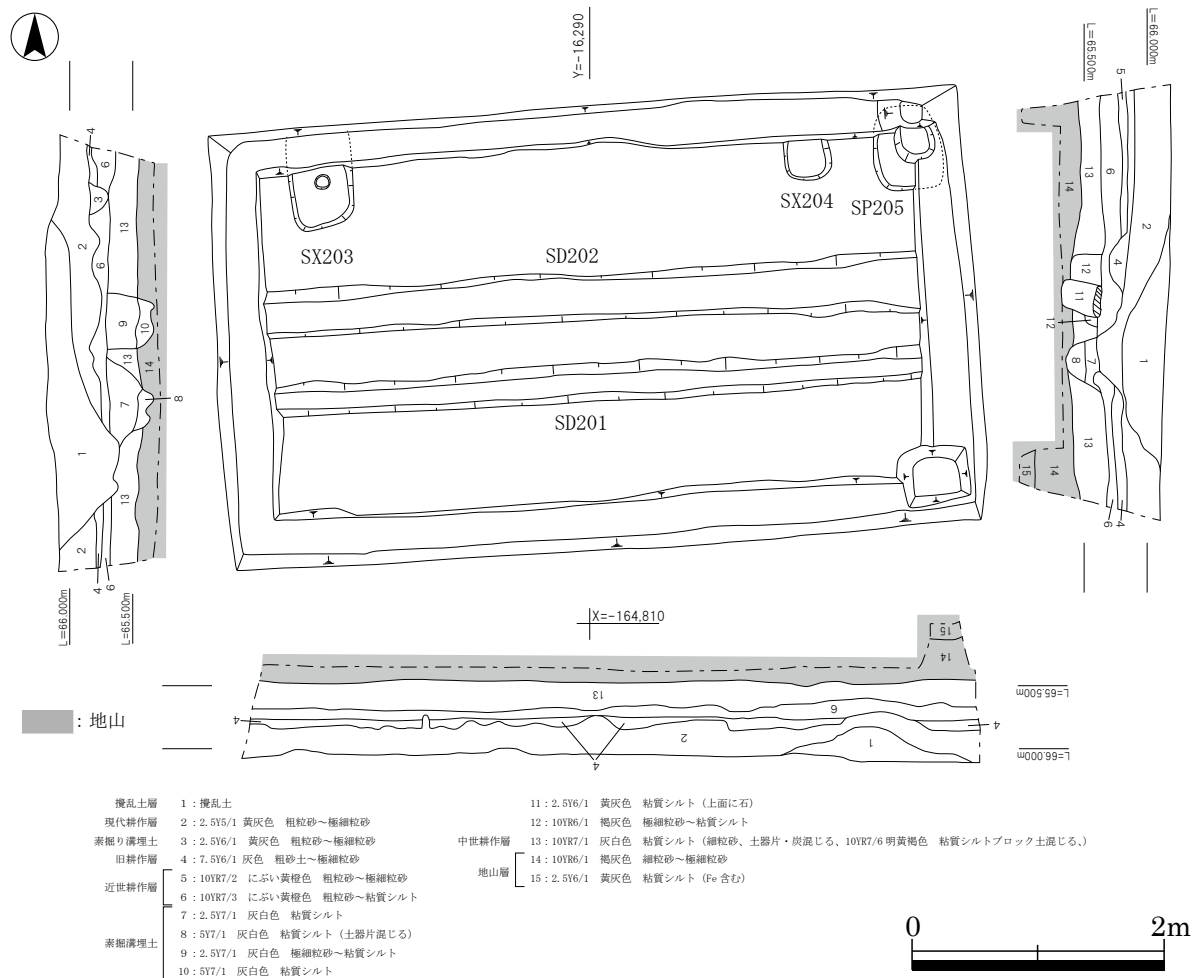


図26 第2トレンチ平・断面図 (S=1/60)

ものを図27で示した。個々の遺物の詳細な観察所見等は遺物観察表(表4)を参照されたい。

1～5はSD102から出土した遺物である。6は第1トレンチ拡張区、7はSP103から出土した遺物である。8はSP205から出土し、9は第1トレンチの中世素掘溝から出土した藤原京期の瓦である。

3. まとめ

今回の調査では藤原京期の遺構として第1トレンチで溝2条と柱穴5基を、また第2トレンチでは柱穴1基を確認することができた。第1トレンチの溝SD101とSD102は東五坊大路の推定位置に当てはまることから、SD101が西側溝、SD102が東側溝であったと考えられる。ただし、すでに確認されている第2次調査での東五坊大路の溝心々間距離は約8.5mであるのに対して、SD101とSD102の心々間距離は約9.5mと広がっていることは考慮する必要がある。しかし、第2次調査地は今回の調査地の北80mの地点と近い事や溝の規模、出土遺物などから、推定通りSD101とSD102は東五坊大路と判断していいだろう。今後、周辺での調査が進むことによって、東五坊大路の様相が明らかになることを期待したい。

(西村)

【参考文献】

清水真一 1992『桜井市内埋蔵文化財 1991 年度発掘調査報告書 3』（財）桜井市文化財協会

橋詰清孝 1987『桜井市大福遺跡・西之宮黒田地区発掘調査報告書』桜井市教育委員会

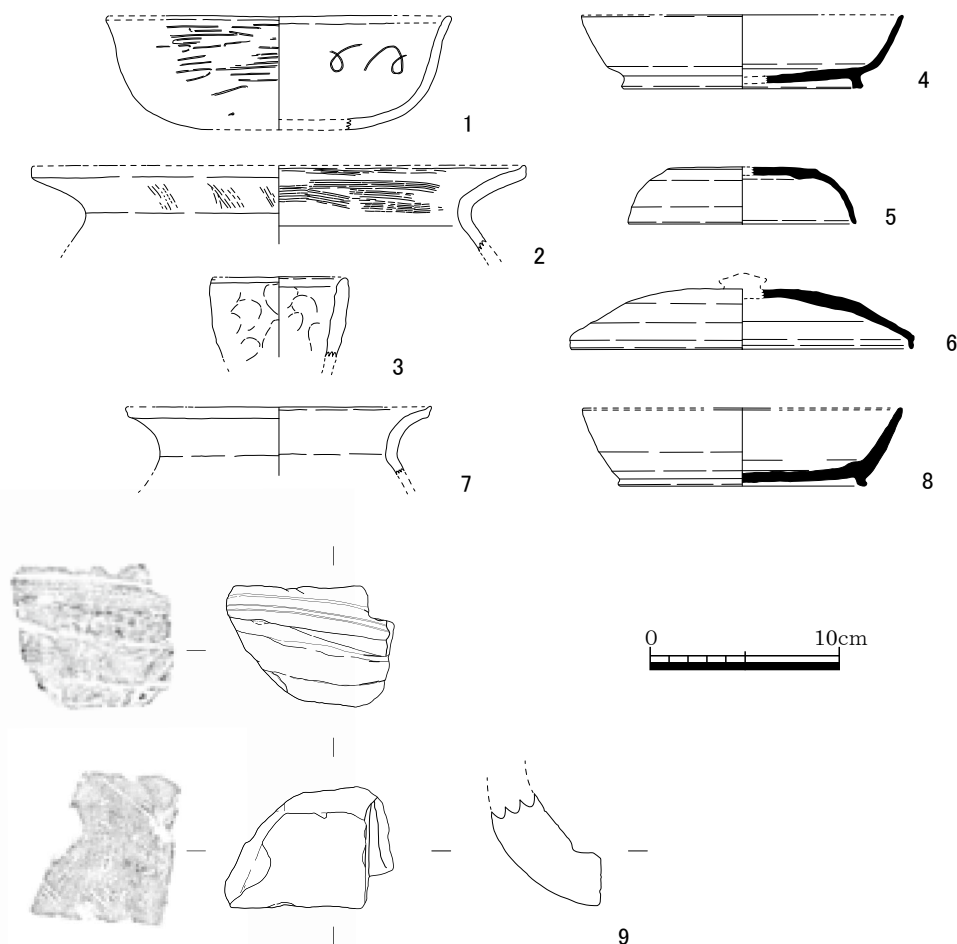


図 27 出土遺物実測図 (S=1/4)

表 4 大藤原京関連遺跡第 73 次調査 出土遺物観察表

図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	法量 (cm)			残存	色調	備考
						口径	底径	器高 (残高)			
図27-1	土師器	坏	SD102	上層・中層	外面:ケズリ後ミガキ ほぼ摩滅(ミガキ少し残る) 内面:ほぼ摩滅(暗文少し残る)	(18)		(6)	口縁1/8	外面:5YR6/6橙色 内面:5YR6/6橙色、10YR7/2にぶい黄橙	
図27-2	土師器	甕	SD102	下層	外面:ナデ、ヨコナデ、タデハケ少し残る(摩滅多い)、移植 内面:ナデ、ヨコハケ	(26)		(4)	口縁1/8	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	
図27-3	土師器		SD102	下層	外K10:M15面:ナデ、指オサエ 内面:指オサエ	(7)		(4.2)	口縁1/7弱	外面:5YR5/6明赤褐色 内面:5YR5/6明赤褐色	
図27-4	須恵器	坏身	SD102	上層	外面:回転ナデ、ナデ、ケズリ 内面:回転ナデ、ナデ		(12.6)	(3.9)	底径1/4	外面:N8/灰白とN7/灰色の間 内面:N8/灰白とN7/灰色の間	
図27-5	須恵器	坏蓋	SD102	中層	外面:回転ナデ、ケズリまたはナデ 内面:回転ナデ	(12)		(2.9)	口縁1/10	外面:N6/灰白、N5/灰色 内面:N7/灰色、N6/灰色	
図27-6	須恵器	蓋	1tr拡張区		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、回転ナデ後ナデ	(18)		(3.2)	口縁1/6	外面:N7/灰白、N6/灰色 内面:N7/灰白	
図27-7	土師器	甕	SP103堀方埋土		調整不明	(16)		(3.3)	口縁～頸部1/8	外面:N3/暗灰、5YR6/6橙色 内面:10YR5/2灰黄褐色	
図27-8	須恵器	坏身	SP205		外面:回転ナデ、ケズリ 内面:回転ナデ、ナデ	(16)		(4.1)	口縁1/28		
図27-9	丸瓦		1tr素掘溝⑤			最大長(8.5)	最大幅(6.1)	(2.9)	不明	凸面:N7/1灰白、N6/1灰色、N5/灰色 凹面:N7/灰白、N6/1灰色	



第1トレンチ 遺構検出状況（南西から）



第1トレンチ 遺構検出状況（北東から）



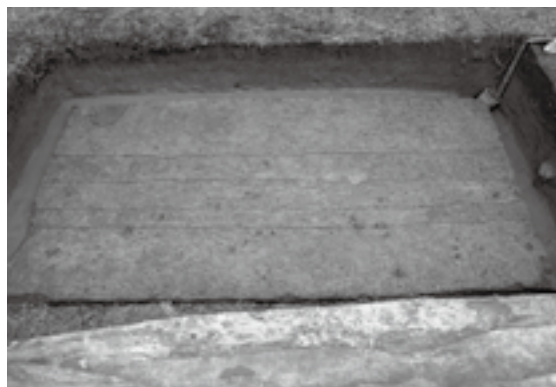
第1トレンチ 全景（西から）



第1トレンチ 東五坊大路（北から）



第1トレンチ東端 柱穴群（東から）



第2トレンチ 遺構検出状況（南から）



第2トレンチ 全景（北東から）



第2トレンチ SP205完掘状況（右が北）

5. 大藤原京関連遺跡第 74 次発掘調査

1. はじめに

大藤原京関連遺跡第 74 次調査は、桜井市大字大福 225-1 でおこなわれた宅地造成工事に伴う発掘調査である。周辺では北側に大福池遺跡、南側に横内遺跡が存在しており、それぞれ縄文時代後期から弥生時代にかけての遺物の出土が確認されている。調査地の西側 60m ほどの場所でおこなわれた第 35 次調査では、藤原京北一条条間小路の道路側溝の可能性のある溝 2 条が検出されたほか、弥生時代後期の土器を含む落ち込みが確認されている。

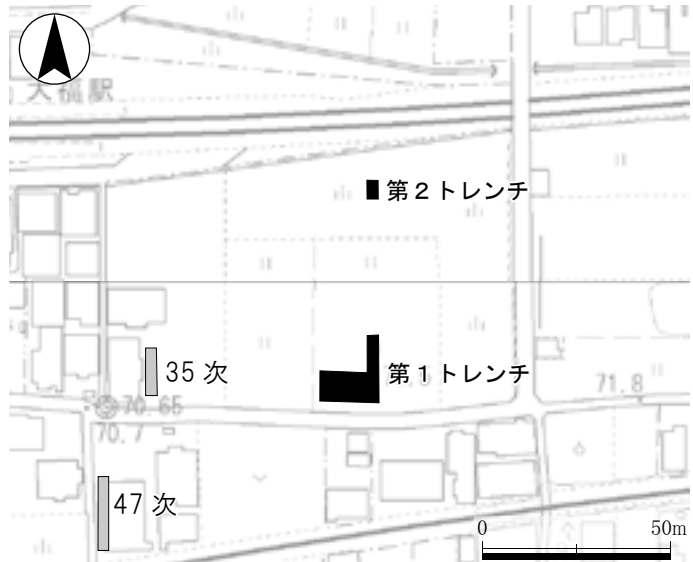


図 28 調査位置図 (S=1/2,000)

2. 調査の内容

調査は南北 2 ヶ所に調査区を設定しておこなった。調査区は第 1 トレンチが 154 m²、第 2 トレンチが 15 m²で合計 169 m²である。調査地の基本層所は第 1 トレンチ・第 2 トレンチいずれも、上から表土（オリーブ灰色細砂層）、旧耕作土（にぶい黄橙色細砂層）、地山（にぶい黄橙色細砂～褐灰色細



図 29 調査区位置図 (S=1/15,000)

砂層)の順である。

第1トレンチでは、南北方向に掘削された中世以降の耕作に伴う多数の素掘り溝と、道路側溝と考えられる東西方向に並行して掘削された2条の溝(SD1003・SD1004)を検出した。南側溝と考えられるSD1003は幅60～80cm、深さ10～15cmを測り、長さ15m分を検出した。北側溝と考えられるSD1004は幅60～80cm、深さ10～15cmを測り、約2m分を検出している。遺物は小片がわずかに出土したのみであり詳細な時期を決定する手掛かりは得られなかった。

トレンチ北端付近では柱穴を一基確認した。径約35cm、深さ約40cmを測る。柱穴の内部には柱根が残存していた。遺物は小片が出土したのみである。調査区内ではこのほかに柱穴は検出されず、どのような建築物を構成する柱穴なのかは不明である。

遺構はこの他に、浅い土坑などをわずかに検出したのみである。遺物については調査区全体をとおして出土量が少ない。主に中世耕作土層からの出土で、藤原京期の須恵器などのほか、弥生時代後期の土器や石包丁の破片なども出土している。

条間小路の側溝と考えられる2条の溝(SD1003・1004)は、溝と溝の芯々間の距離が約6.8m、路面幅は約6mになる。これまでの藤原京の調査成果から小路の路面幅は約6.5mで設定されることが多い。第35次調査で検出された北一条条間小路の道路側溝と考えられる溝は、芯々間距離7.4m、路面幅6.6mとなり小路の路面幅にほぼ合致する数字が得られている。これに対して今回見つかった道路側溝は、南側溝の位置がやや北にずれており、それにより路面幅も少し狭くなっているようである。

第2トレンチでは、表土、旧耕作土を重機によって除去したのち、地山層上面で遺構検出をおこなったが、遺構は確認されなかった。

3. まとめ

今回の第74次調査では、第35次調査で確認されていた北一条条間小路と推定される溝2条の東側延長部分を確認することができた。ただし、検出された条間小路は南側溝が約50cm北側にずれており、第35次調査の南側溝とは一直線に通らないことが明らかになった。こうした道路側溝のずれについては、今回調査地と第35次調査地の間に南北道路である東八坊大路が通り、北一条条間小路との交差点が想定されていることから、交差点を挟んで道路側溝の施工にずれが生じた可能性が考えられる。

また明確な遺構を確認することは出来なかったが、弥生時代後期の土器片が多数出土しており、同じく第35次調査でも弥生時代後期の落ち込みが検出されていることから、調査地周辺に同時期の遺構が広がる可能性が考えられる。

このように、今回の調査を含めいずれも小規模な範囲の調査ではあるが、徐々に桜井市域における藤原京域の様子が明らかになりつつある。今後もこのような成果を積み上げていき、藤原京のより具体的な姿を明らかにしていきたい。

(飯塚)

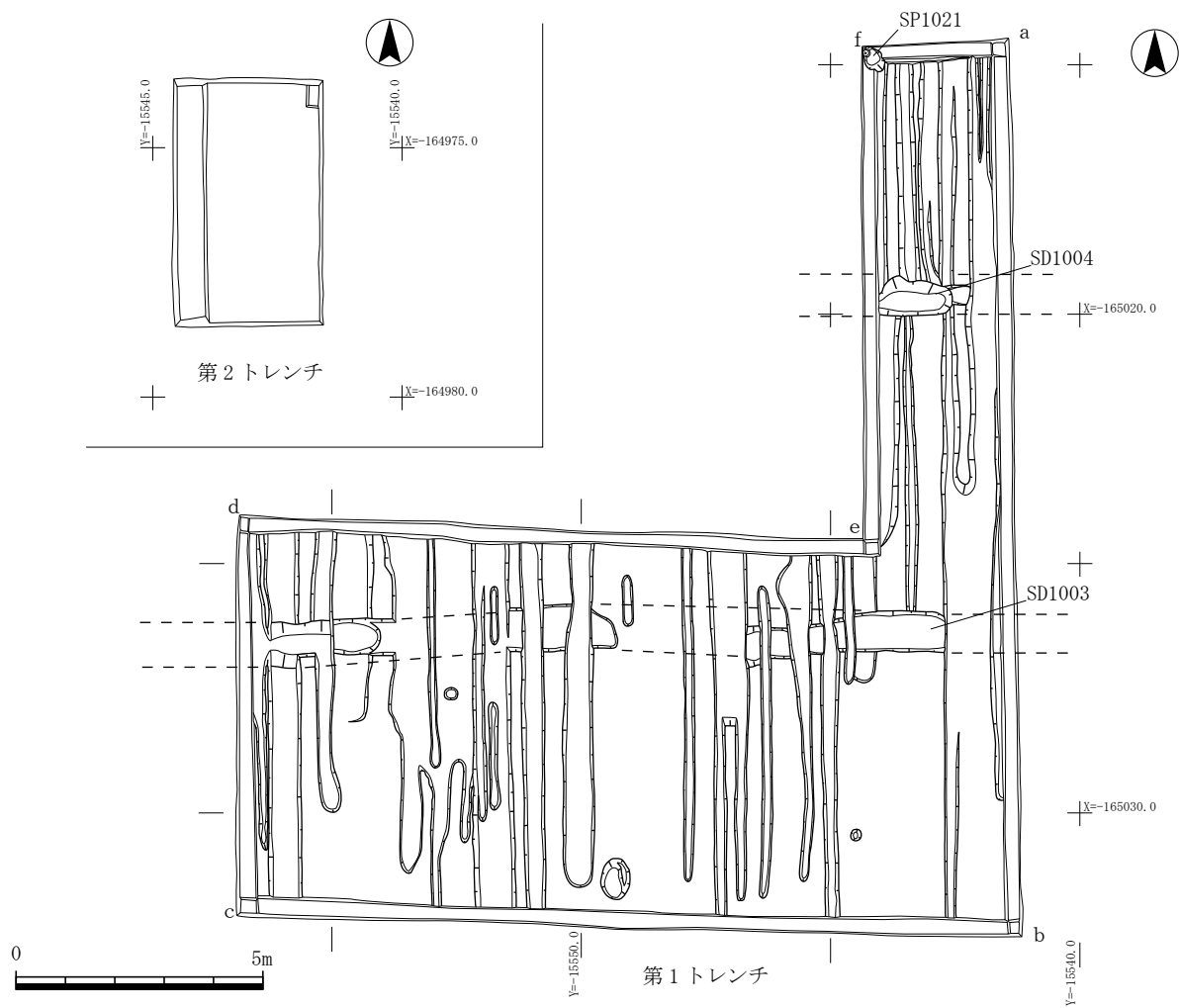


図 30 調査区平面図 (S=1/150)

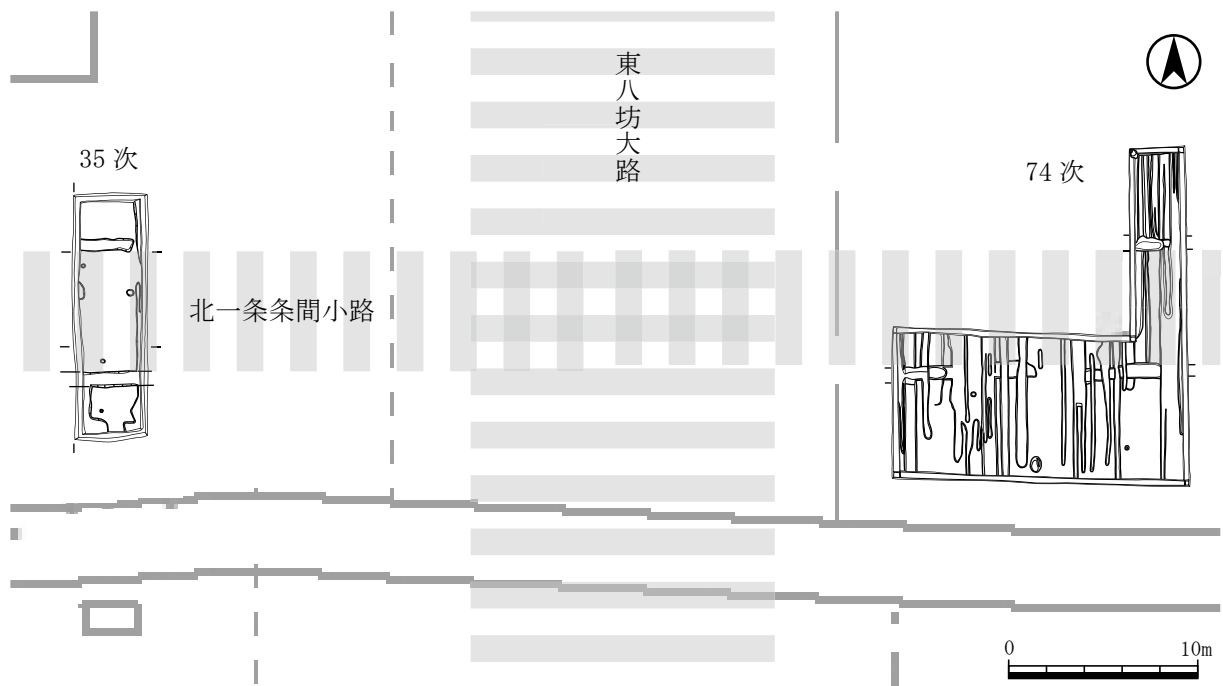
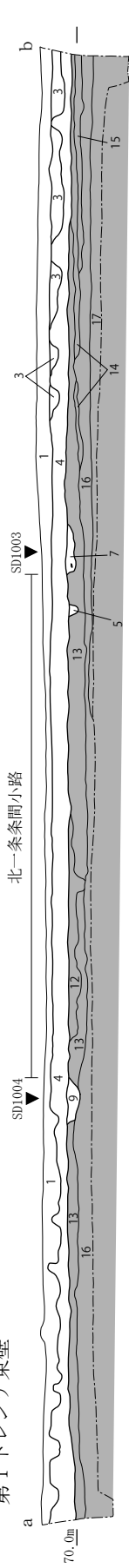
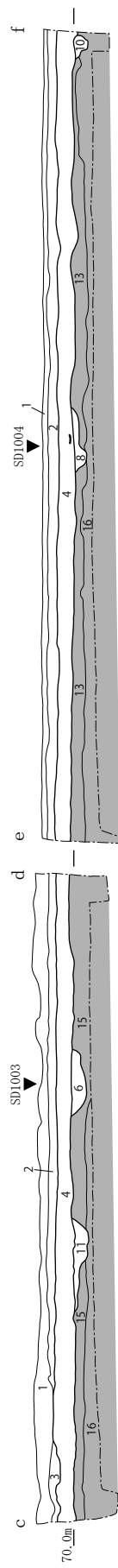


図 31 調査地周辺の条坊道路推定図 (S=1/400)

第1トレンチ東壁



第1トレンチ西壁



表土	1.	2.5GY5/1	オリブ灰色シルト	SD1003	7.	10YR6/1	灰白色シルト	地山	12.	10YR5/8	黄褐色細砂〜中砂
素掘り溝	2.	10YR6/2	灰黄褐色シルト	SD1004	8.	10YR4/2	灰黄褐色シルトブロック混じる	地山	13.	10YR6/3	にぶい黄橙色細砂
素掘り溝	3.	10GY7/1	明緑灰色シルト〜細砂			10YR7/2	にぶい黄橙色シルト	地山	14.	10YR8/1	灰白色中砂
中世耕作土	4.	10YR7/2	にぶい黄橙色シルト			10YR4/2	灰黄褐色シルト〜細砂ブロック混じる	地山	15.	10YR6/1	褐灰色細砂
Pit	5.	10YR7/1	灰白色シルト	SD1004	9.	10YR7/1	灰白色シルト〜細砂	地山	16.	10YR6/1	褐灰色シルト〜細砂やや粘る
		10YR7/6	明黄褐色粘質ブロック土混じる	SP1021	10.	10YR6/1	褐灰色細砂〜中砂混じる Fe 沈着	地山	17.	10YR5/1	褐灰色粘質シルト
SD1003	6.	10YR6/1	褐灰色シルト	SK1020	11.	10YR4/1	褐灰色シルト				
		10YR5/2	灰黄褐色細砂〜中砂ブロック混じる								

第2トレンチ西壁

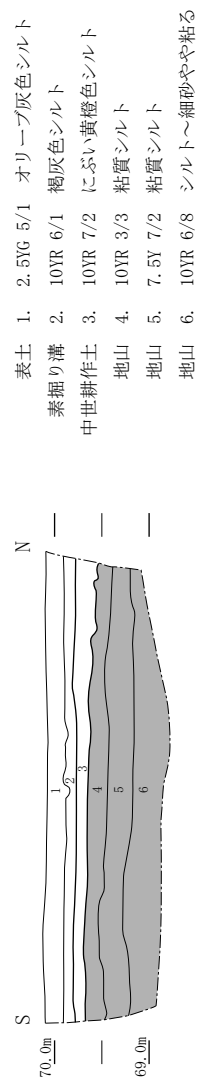
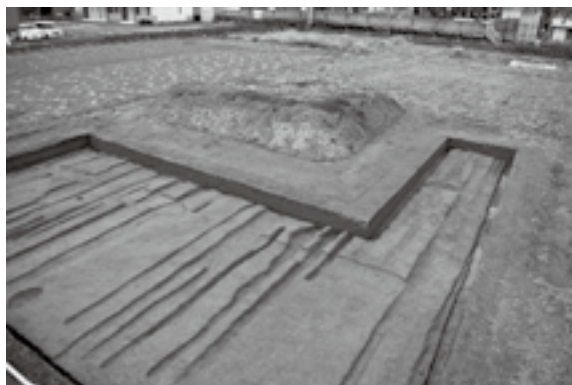


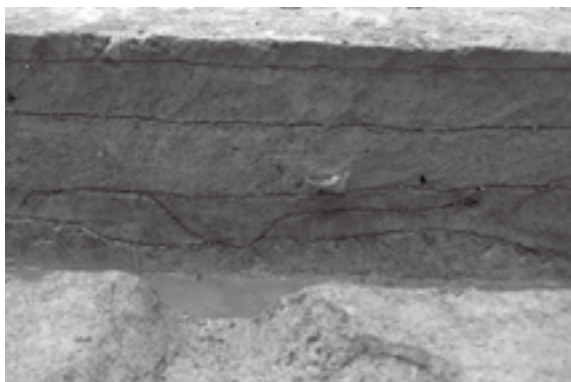
図 32 第1トレンチ・第2トレンチ土層図 (S=1/80)



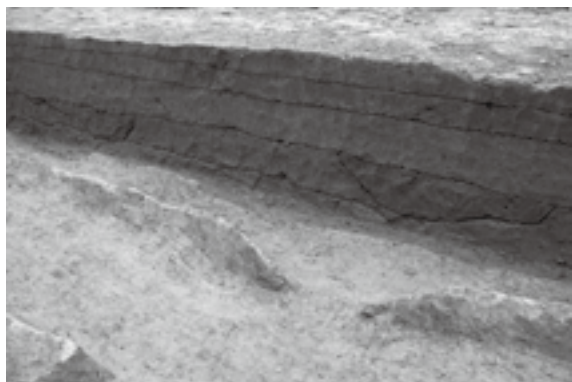
第1トレンチ全景（東から）



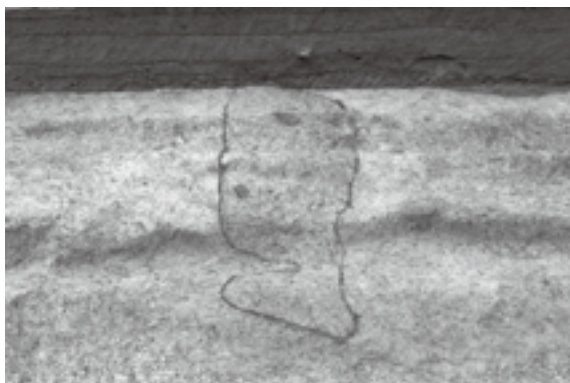
第1トレンチ全景（南東から）



SD1004土層断面（東から）



第1トレンチ西壁（北東から）



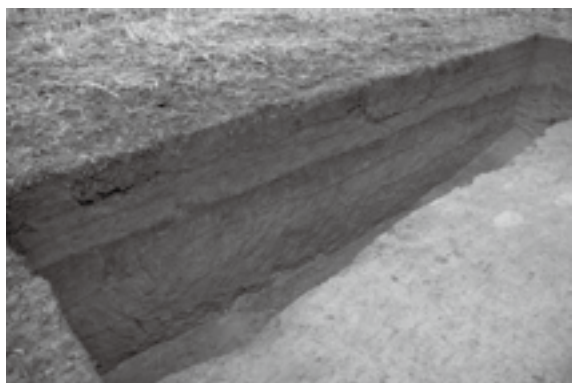
SD1004検出状況（東から）



SP1021（南から）



第2トレンチ全景（南から）



第2トレンチ西壁（南東から）

6. 保存処理

発掘調査により市内から出土した埋蔵文化財の中には、腐食や劣化に伴い、資料としての取り扱いや、通常の保管が困難なもの（主に木製品や金属製品・動物遺存体）がある。それらについては、保存のために科学的処置をおこなっている。

（1）木製品

木製品を保存するには、乾燥による木材が変形しないよう、また木材の強化をする必要がある。当センターでは細胞壁内の水分を糖アルコール（トレハロース）に置換え、結晶化させる処理をおこなっている。令和5年度に保存処理を実施したのは、以下のとおりである。

調査名	件数
纏向遺跡第191次調査	2点
纏向遺跡第195次調査	42点
纏向遺跡第200次調査	9点



保存処理後の木製品
（纏向遺跡第195次調査 槽）

（2）金属製品

金属製品は、そのまま放置していると錆が進行し、遺物の原形が崩れていくので、これ以上錆が進行しないようにまず錆を除去する。その後脱塩処理をすることで腐食の進行を抑制させる。そして乾燥させ、遺物の強化と再汚染を防止するためにアクリル樹脂（パラロイドー B72）でコーティングをする処理をしている。令和5年度に処理を実施したものはなかった。

（3）動物遺存体（骨）

動物遺存体（骨）は、脱水したのちに、強化を目的にアクリル樹脂（パラロイドー B72）を含浸している。令和5年度に保存処理を実施したのは、以下のとおりである。

調査名	件数
纏向遺跡第183次調査	1点



保存処理後の動物遺存体(骨)
（纏向遺跡第183次調査 獣骨）

Ⅵ. 図書の受領

1. 受領図書・パンフレット

令和5年度に、関係各位から寄贈いただいた図書は、北は北海道から南は沖縄県まで約1,165件であった。その内訳は、以下の通りである。(五十音順)

【北海道】

千歳市教育委員会・北海道埋蔵文化財センター

【岩手】

(公財) 岩手県文化振興事業団・北上市立埋蔵文化財センター・二戸市埋蔵文化財センター・盛岡市遺跡の学び館

【宮城】

(公財) 仙台市市民文化事業団・地底の森ミュージアム

【秋田】

秋田県教育委員会・秋田県埋蔵文化財センター・秋田県立博物館

【山形】

東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科・南陽市教育委員会・(公財) 山形県埋蔵文化財センター・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

【福島】

いわき市教育委員会・(公財)いわき市教育文化事業団・(公財)郡山市文化・学び振興公社・相馬市史編さん委員会・広野町教育委員会・(公財)福島市振興公社・福島大学行政政策学類考古学研究室

【茨城】

(公財) 茨城県教育財団・筑波大学人文社会ビジネス化学学院

【群馬】

(公財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団・下仁田町教育委員会・高崎市観音塚考古資料館・高崎市教育委員会

【埼玉】

川越市教育委員会・熊谷市教育委員会・埼玉県児玉郡美里町遺跡調査会・埼玉県立嵐山史跡の博物館・埼玉県立さきたま史跡の博物館・所沢市教育委員会・所沢市立埋蔵文化財調査センター・東松山市教育委員会・深谷市教育委員会

【千葉】

市原市教育委員会・印旛郡市文化財センター・木更津市教育委員会・国立民俗歴史博物館・佐倉市教育委員会・芝山町教育委員会・(公財)千葉県教育振興財団・千葉市教育委員会・八街市教育委員会

【東京】

葛飾区教育委員会生涯学習課・観光考古学会國學院大學文学部考古学研究室・台東区教育委員会・八王子市・文京区教育委員会・法政考古学会

【神奈川】

海老名市教育委員会・神奈川県教育委員会・(公財)かながわ考古学財団・茅ヶ崎市教育委員会・(財)茅ヶ崎市文化振興財団・平塚市教育委員会・藤沢市教育委員会・武相文化財研究所

【新潟】

加茂市教育委員会・加茂市民俗資料館・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県埋蔵文化財センター・新潟市教育委員会・新潟市歴史博物館

【富山】

射水市教育委員会・富山市教育委員会・富山市考古資料館・富山県埋蔵文化財センター

【石川】

かほく市教育委員会・能登町教育委員会

【福井】

越前町教育委員会・福井県教育庁埋蔵文化財調査センター・福井市教育委員会

【山梨】

山梨県・山梨県立考古学博物館・山梨県埋蔵文化財センター

【長野】

安曇野市教育委員会・上田市教育委員会・茅野市教育委員会・(一財)長野県文化振興事業団・長野県埋蔵文化財センター・長野県立歴史館・長野市埋蔵文化財センター

【岐阜】

各務原市教育委員会・(公財)多治見市文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査室・多治見市教育委員会・多治見市文化財保護センター・(公財)土岐市文化振興事業団・土岐市美濃陶磁歴史館

【静岡】

磐田市教育委員会・掛川市文化スポーツ振興課・静岡県スポーツ・文化観光部文化課・静岡県埋蔵文化財センター・沼津市教育委員会・浜松市教育委員会・袋井市教育委員会・富士市教育委員会・三島市教育委員会

【愛知】

愛知学院大学文学部歴史学・(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団・愛知県埋蔵文化財調査センター・安城市教育委員会・安城市歴史博物館・稲沢市教育委員会・春日井市教育委員会・江南市歴史民俗資料館・(公財)瀬戸市文化振興団・豊田市・豊橋市教育委員会

【三重】

伊賀市教育委員会・斎宮歴史博物館・鈴鹿市考古博物館・鈴鹿市文化スポーツ部文化財課・津市教育委員会・三重大学人文学部考古学・日本史・東洋史研

究室・三重県埋蔵文化財センター

【滋賀】

大津市教育委員会・近江聖人中江藤樹記念館・近江八幡市総合政策部文化振興課・草津市教育委員会・甲賀市教育委員会・滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立大学人間文化学部・(公財)滋賀県文化財保護協会・高島市教育委員会・高島歴史民俗資料館・東近江埋蔵文化財センター・東草野山村博物館・彦根市教育委員会文化財課・米原市教育委員会・守山市教育委員会・野洲市教育委員会・野洲市歴史民俗博物館・栗東市教育委員会・(公財)栗東市スポーツ協会文化財調査課

【京都】

綾部市教育委員会・大山崎町教育委員会・亀岡市教育委員会・木津川市教育委員会・京田辺市教育委員会・京都市文化市民局・(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都橘大学大学院・京都府教育委員会・(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター・島本町教育委員会・精華町教育委員会・同志社大学歴史資料館・長岡京市教育委員会・(公財)長岡京市埋蔵文化財センター・八幡市教育委員会・舞鶴市教育委員会・向日市教育委員・(公財)向日市埋蔵文化財センター・与謝野町教育委員会・立命館大学文化遺産専攻

【大阪】

和泉市教育委員会・和泉市いずみの国歴史館・泉大津市教育委員会・泉佐野市教育委員会・泉佐野市立歴史館いずみさの・茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館・大阪大谷大学歴史文化学科・(一財)大阪市文化財協会・(公財)大阪府文化財センター・大阪府教育委員会・大阪府立狭山池博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪歴史博物館・柏原市立歴史資料館・交野市教育委員会・門真市市民文化部生涯学習課・熊取町教育委員会・堺市文化観光局文化部文化財課・狭山市教育委

員会・四条畷市教育委員会・島本町教育委員会・吹田市教育委員会・吹田市立博物館・太子町教育委員会・太子町立竹内街道歴史資料館・高槻市立埋蔵文化財センター・高槻市街にぎわい部 文化財課・富田林市教育委員会・羽曳野市教育委員会・東大阪市・枚方市観光にぎわい部 文化財課・藤井寺市教育委員会・松原市教育委員会・八尾市魅力創造部観光・文化財課・(公財)八尾市文化財調査研究会・山口大学人文学部

【兵庫】

芦屋市教育委員会・赤穂市教育委員会・尼崎市教育委員会・大手前大学史学研究所・加古川市教育委員会・加西市教育委員会・上郡町教育委員会・上郡町郷土資料館・川西市教育委員会・神戸市文化スポーツ局文化財課・神戸市立博物館・宍粟市教育委員会・多可郡多可町教育委員会・(公財)辰馬考古資料館・豊岡市・豊岡市立歴史博物館―但馬国府・国分寺館―・播磨町郷土資料館・姫路市立城郭研究室・兵庫県教育委員会・(公財)兵庫県まちづくり技術センター・埋蔵文化財調査部・兵庫県立考古博物館・福崎町教育委員会・三木市教育委員会・三木市立みき歴史資料館

【奈良】

斑鳩町教育委員会・斑鳩町文化財活用センター・生駒市教育委員会・生駒ふるさとミュージアム・王寺町・大神神社事務所・橿原市・葛城市歴史博物館・河合町教育委員会生涯学習課・(公財)元興寺文化財研究所・上牧町教育委員会社会教育課・(独)国立文化財機構 奈良文化財研究所・曽爾村教育委員会・高取町教育委員会・田原本町教育委員会・十津川村・帝塚山大学考古学研究所・帝塚山大学附属博物館・天理市教育委員会・天理大学・奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会・奈良県文化教育くらし創造部文化財保存課・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立図書情報館・奈良県立美術館・奈良県立万

葉文化館・奈良県立民俗博物館・奈良市教育委員会・奈良大学博物館・奈良大学文化財文化財学科・奈良文化財研究所・なら歴史芸術文化村・埋蔵文化財天理教調査団・大和郡山市まちづくり戦略課文化財保存活用係・山添村教育委員会・(公財)由良大和古代文化研究協会

【和歌山】

有田川町教育委員会・かつらぎ町教育委員会・紀の川市教育委員会・白浜町教育委員会・和歌山県教育委員会・和歌山市文化振興課・(公財)和歌山県文化財センター・(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団・和歌山県立紀伊風土記の丘

【鳥取】

大山町観光課文化財室・鳥取県地域づくり推進部文化財局・鳥取県埋蔵文化財センター・鳥取県立おきばんだ史跡公園・鳥取市教育委員会・(公財)鳥取市文化財団・日野郡日南町教育委員会・八頭町教育委員会・米子市教育委員会・(一財)米子市文化財団

【島根】

出雲市教育委員会・出雲弥生の森博物館・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター・島根大学法文学部

【岡山】

岡山県教育委員会・岡山県古代吉備文化財センター・岡山市教育委員会・岡山大学大学院社会文化科学研究科考古学研究室・岡山大学文学部考古学研究室・岡山大学文明動態学研究所・倉敷市教育委員会・新庄村教育委員会・総社市産業部観光プロジェクト課

【広島】

呉市教育委員会・庄原市教育委員会・東広島市教育委員会・東広島市出土文化財管理センター・(公財)広島県教育事業団・(特非)広島文化財センター・みよし風土記の丘ミュージアム

【山口】

山口県埋蔵文化財センター・（公財）山口県ひとつくり財団・山口県埋蔵文化財センター・山口市教育委員会・山口大学埋蔵文化財資料館

【徳島】

小松島市教育委員会・（公財）徳島県埋蔵文化財センター・美馬市教育委員会

【香川】

香川県教育委員会・高松市埋蔵文化財センター・丸亀市教育委員会

【愛媛】

愛南町教育委員会・（公財）愛媛県埋蔵文化財センター・愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室・松山市教育委員会・（公財）松山市文化スポーツ振興財団

【高知】

（公財）高知県文化財団・高知県歴史文化財課・香南市埋蔵文化財センター

【福岡】

朝倉市教育委員会・糸島市教育委員会・糸島市立伊都国歴史博物館・春日市教育委員会・九州大学大学院考古学研究室・九州大学埋蔵文化財調査室・久留米市教育委員会・上毛町教育委員会・太宰府市教育委員会・筑前町教育委員会・福岡市教育委員会

【佐賀】

唐津市教育委員会・鳥栖市教育委員会

【長崎】

壱岐市立一支国博物館

【大分】

大分市歴史資料館

【宮崎】

えびの市教育委員会・新富町教育委員会・宮崎県埋蔵文化財センター

【鹿児島】

鹿児島県立埋蔵文化財センター

【沖縄】

那覇市立壺屋焼物博物館

【海外】

清華大学芸術博物館

【個人】（敬称略）

相原嘉之

磯川広昭

豊田滋通

由井大介

松田度

森田成男

令和 5 年度
桜井市立埋蔵文化財センター
年報

発行年月日 令和 6 年12月27日
編集・発行 桜井市教育委員会文化財課
奈良県桜井市大字芝 58 番地の 2
桜井市立埋蔵文化財センター内
印 刷 株式会社 明新社
奈良市南京終町 3 丁目 464 番地